

わが子のあゆみ



岐阜県PTAが作る子育て情報機関誌

2015.11 NO.440

初冬号

第67巻3号

11

親子観音山登山

7月26日(日)、PTAの行事で学校のすぐ南にある観音山に親子で登りました。登山道の途中からは神岡の町並みや北アルプスの大きな山がよく見えました。ガイドさんと一緒に登り、自然の素晴らしさや大切さ、山でのマナーなども学びました。親子で一緒に弁当も作り、準備から協力して頑張りました。

ひだしりつかみおかしょうがっこう
飛騨市立神岡小学校

●【学校の教育目標】

自ら考え 仲間とともにやりぬく たくましい神岡の子

今年度は特に「伝える」を合い言葉に「考えを伝える」「やさしさを伝える」「自分のこととして受け止め、行動で伝える」ことのできる児童の育成を目指しています。



神岡小学校の校章

平成17年、神岡小学校創立時に、神岡出身の上葛明広氏デザインで制定。オレンジ、青、黄は合併した3校のスクールカラー。三つの山は、流葉山・二十五山・大洞山に象徴される地域の自然と、新たな旅立ちの躍動感を示す。夢・友情・挑戦の願いがある。

岐阜市立三輪北小学校

●住所 〒501-2512 岐阜市北野東356 番地
●TEL (058)229-1103
●FAX (058)229-1138
●メール gisyo40@miwa-n-e.gifu-gif.ed.jp
●児童数 100名



▲全面芝生の運動場

校歌

三輪北小学校校歌

作詞 各務 虎雄
作曲 内本 実

一、ほまれも高き 三輪北の
教えの庭に 日は満てり
心ほがらに むつみつ
汲めども尽きぬ 人の幸
強く正しく 興さんと
希望にもえて
われら学べり

二、かおりも深き 三輪北の
栄えはとわに ゆるぎなし
進みゆく世に さきがけて
花とかがやく 里の富
清く明るく ひらかんと
誓いもかたく
われら励めり



▲わんぱくグループで芋掘り



▲地域の知恵に学ぶ田植え



▲力いっぱい走り回るどろんこ遊び



▲地域とともに働く稲刈り

沿革・地域の自然や風土

豊かな心をもち、すすんでやりぬく子

明治五年（一八七二年）、明誼学校として出発した三輪北小学校は、一四〇年以上の歴史を誇っています。校区は岐阜市の北東部に位置し、古代以来、長良川流域の肥沃な土地を背景に、経済、文化を発展させてきた歴史をもっています。豊かな田園が広がる校区には、三輪神社や真長寺、大智寺、落語の祖先安楽庵策伝ゆかりの浄音寺といった古刹が多く、文化財としても貴重です。さらに江戸時代には、蕉門十哲として名高い俳人各務支考を輩出しており、文芸の歴史もあります。現在は、高速道路のインター建設工事が急ピッチで進められ、トラックの往来が激しくなっています。が、校区全体が市街化調整区域に指定されていることもあって世帯数の変化は少なく、児童数も毎年減少しています。本校では、これまで、地域の自然を生かし、家庭や地域との連携を深める農業体験活動「どろんこ活動」や地域の歴史を生かした「俳句活動」及び、子ども相互の関連を一層深める「いちよう活動」に取り組んできています。今年度は、さらに子どもたちが主体的に活動できるように

工夫し、子ども一人一人が地域の知恵に学びながら自らのよさを伸ばし、仲間と共に助け合う姿を目指しています。そして「ふるさと三輪」のよさを感じ「三輪に育ってよかった」という地域に対する誇りを持つてくれることを願っています。

どろんこ活動

「どろんこ活動」は、本校が三〇年以上取り組んできている「さつまいもづくり」（六年生主体）を中核として行っています。さつまいもは、毎年六月に、全校を八つに分けた縦割り集団の「わんぱくグループ」毎に地域の方に協力をしていたたきながら苗を植え、秋に収穫をしています。

平成十六年度からは環境教育の視点をふまえた有機農業による「もち米づくり」（五年生主体）が加わりました。五年生は、総合的な学習の時間で「米作り」について学習しており、地域の指導者に教えて頂きながら、田植えや稲刈りだけでなく、しろかき、稲架かけ、脱穀まで、米作りの一連の流れを体験します。しろかきの前には、どろんこ田へ一、二年生を招待してどろんこ遊びを行います。

今年も、子どもたちは、泥の感触を肌で感じながら大はしゃぎでどろんこ田を走り回っていました。無農薬有機栽培の関係で多くの雑草が生えるため、夏には草取りも行います。

秋には収穫祭である「いいいも祭り」が開催され、保護者や子どもたちが協力して作った焼き芋やいも汁、もち米のおにぎりの昼食を、芝生の上で地域の方と一緒に食べています。どろんこ田で収穫したもち米や三輪北小のシンボルである大銀杏から収穫した銀杏（一、二年が収穫）の販売も行われます。活動で得た収益金をもとに、毎年地域の施設にプレゼントを贈っています。このように、いいいも祭りは、保護者だけでなく地域の方も一緒に盛り上がるお祭りです。

いちよう活動

「いちよう活動」は、今年四年目となる子ども中心の、よりよい学校生活をめざした活動です。「いちようつ子パワー」を合言葉に、学年を越えた関わりを一層深め、高学年としての自覚や集団の一員としての自覚を高めるため、縦割り遊び「わんぱくタイム」や、高学年が低学



▲獅子庵での俳句作り

で、子どもたちは元気にのびのびと学校生活を送りながら「楽しい授業」「わかる授業」に取り組んでいます。

俳句活動

三輪北小学校の校区には、松尾芭蕉の弟子の一人である各務支考が居住していた獅子庵があります。本校の「俳句活動」は、郷土の生んだ俳人各務支考にちなみ、子どもの人間形成に大切な思いやりの心や三輪の自然や地域の文化を愛する心を育む活動として平成十二年度より全校で取り組んでいます。獅子庵看住の梅村五月先生の指導のもと、家庭にも働きかけて春夏秋冬の季節毎に俳句作りを行

い、「各務支考賞」「各務支考大賞」を選定し、年六回俳句大賞を発行しています。また全国のさまざまな俳句コンクールにも取り組んでいます。各務支考の誕生日に当たる二月七日を「各務支考の日」として、一年間に作った中の自分のお気に入りの一句を短冊に書いて、展示、鑑賞します。こうした取り組みをまとめた「三輪北俳句集」もこれまでに三冊発行しています。

全面芝生の運動場

三輪北小学校の運動場は、全面芝生です。六年前に地域と協力して完成させました。土の運動場に比べて気温が三℃ほど低いので、夏の熱中症予防にも役立っています。また、芝生がクッションの役割をするため擦り傷などの怪我がとても少なく、土埃が立たないなど多くの利点があります。

子どもたちは、休み時間になると裸足で走り回りながら芝生の感触を楽しんでいます。芝刈りや水やりなど管理が大変ですが、PTAと協力しながら進めています。秋の運動会も一面の芝生の上で子供たちは力一杯走り回ります。



▲いいいも祭り 地域の方と一緒に昼食



▲いいいも祭り 地域の方と一緒に昼食



【おおがきりつみなみしょうがっこう】

大垣市立南小学校

住所 〒503-0857 大垣市美和町1871番地
TEL (0584) 78-2513
FAX (0584) 78-2589
メール nansyo@ogaki-city.ed.jp
児童数 308名



▲南小学校全景

校歌

南小学校校歌

作詞・作曲 江口 夜詩

一、緑の風を 背に受けて
明るく渡る 美波橋
みんな みんな
手をとって合せて
正しく誠の道を行く
ぼくらのぼくらの南小学校

二、清らかな花よ 白梅は
心を清め 身を鍛う
みんな みんな
手をとって合せて
たゆまず元気で一筋に
進むよ進むよ南小学校

三、泉の都 水の街
そびえる城は わが誇り
みんな みんな
手をとって合せて
自由と平和を築きましよう
われらのわれらの南小学校



▲南っ子いちばん活動の発表

明るく かしこく たくましく

・めざす学校の姿 ～自ら行動を起こし、自分も仲間も大切にできる学校～

校区・学校の概要

本校は創立九十七年を迎えます。大垣市のほぼ中央に位置し、東西一・二km、南北一・八kmほどの小さな校区です。その東側には国道二五八号線（水郷街道）が、西側には水門川が、北側には大垣城があり、南側には東海道新幹線が走っています。校区の北側には、美濃路が通り、古くからの住宅街です。本校の北には大垣市立南中学校、西には岐阜県立大垣東高等学校が隣接し、文教地区とも言えます。

今年、「大垣祭の軌行式」が国の重要無形民俗文化財に指定されました。十三両ある軌の内、三両を校区の町内が保管しており、大垣まつりには、軌と一緒に練り歩く児童の姿があります。本校の通常学級は、五年生が単学級ですが、他の学年は二学級で、児童数は減少傾向です。特別支援学級として、知的学級である「あすなろ」、情緒学級である「たんぽぽ」、肢体不自由学級である「ひまわり」、言語通級教室である「こたま」があります。また、大垣市民病院と隣接しており、その院内学級である「こふし」があるのも特徴の一つです。

本校の通常学級は、五年生が単学級ですが、他の学年は二学級で、児童数は減少傾向です。特別支援学級として、知的学級である「あすなろ」、情緒学級である「たんぽぽ」、肢体不自由学級である「ひまわり」、言語通級教室である「こたま」があります。また、大垣市民病院と隣接しており、その院内学級である「こふし」があるのも特徴の一つです。

南小学校の「みなみちゃん」

みなみちゃん character introduction with text about school spirit and self-confidence.

2 あかるくあいさつ

マスコットキャラクター「みなみちゃん」を作って、今年度は、「自らやる子」(MYK)を加え、自ら学習や活動に取り組むことを大切にしています。

5 南っ子いちばん活動

今年度より、学級づくりの一環として、「南っ子いちばん活動」を始めました。これは、全校あるいは学級で取り組んでいる中から、学級で重点とするものを決め、南小学校の他の学級に誇れる姿になるよう取り組む活動です。これに取り組むことによって、「やればできる」という自己肯定感と、「がんばる自分を応援してくれる」という他者信頼感を育みたいと考えています。

6 六年生のマーチング

子どもたちに「南小が伝統的に取り組んでいることは？」と聞くと、マーチングが挙がります。マーチングは、六年生が一年にわたって月に二回ほど練習し、その成果を運動会と十万石まつりパレードで演奏しています。



▲マーチングパレード

Table with 3 columns: School Education Goals, Focus, and Slogan. Rows include 'あかるく' (bright), 'かしこく' (wise), and 'たくましく' (strong).

昨年度の「あいさつ」の活動では、登校時に、校長や教頭があいさつの上手な子たちにあいさつカードを渡し、そのカードを五枚ためると免許状をもらえるという取組をしました。本年度は、個人ではなく登校班全体のあいさつの様子を観察し、素晴らしいあいさつの姿を広めようとしています。また、リーダーとなる班長・副班長が中心となつて、横断歩道を渡った後、止まってくれた車にお礼をすることも始めています。さらに、隣接する中学校や高等学校の生徒会と合同であいさつ活動にも取り組んでいます。年に数回ですが、それぞれの校門に立って、みんなであいさつをしています。ちょっと照れくさそうなお言葉も三つ作って取り組んでいます。

6 ふるさと学習

毎年、十月になると、五年生が六年生からマーチングのアドバイスを一対一で受けます。その後は自分たちで練習を重ねていきます。思うように楽器が鳴らなかったり、うまく動けなかったりしながらも、懸命に練習を重ねていきます。今取り組んでいる六年生も、このわが子のあゆみが発行されている頃には五年生に引継ぎをし、よい思い出になっていると思っています。



▲大黒軸の訪問



▲主夫の会による剪定

7 地域の方の協力

PTAはもちろん、学校支援ボランティア（読み聞かせ・授業支援）、下校見守り隊、主夫の会など、多くの方々に学校の活動を支えていただいています。特に主夫の会は、本校の男性保護者を中心に、多くの方に参加いただいています。樹木の剪定や運動会の準備・片付けに加え、昨年度は「夜間校舎探検」等、楽しい活動も計画し、PTAと協力して活動していただいております。今後も、多くの方々の協力の下、教育活動を展開してまいります。



▲三校でのあいさつ活動

さそうな様子も見られますが、あいさつを広げる場としてとらえています。「べんきょう」は、どの教科でも「わけ」を話すことを大切にしています。「わけをつけてはつきり話す」ことによって、相手に内容がよく伝わりやすし、自分の考えをはっきりさせることができます。「そうじ」では、掃除時間が始まる前から準備し、声を出さず、教室や廊下の隅々まで、ていねいに掃除する姿が校内の多くの掃除グループで見られました。自分たちで考えて取り組んだ素晴らしい掃除グループは「掃除マイスター」として認証され、全校に広がっていきました。この掃除マイスターは大垣市PTA連合会から善行児童と

八百津町立潮見小学校

●住所 〒505-0531 加茂郡八百津町潮見1125
●TEL (0574)42-1017
●FAX (0574)42-1260
●URL <http://www.shiomi.yaotsu.jp/>
●メール shiomi@sch.yaotsu.jp
●児童数 10名



▲校舎

校歌

潮見小学校校歌

作詞 瀧澤 実子
作曲 河野 信一

- 一、雨です風です 吹雪です
遠い道です 山道野道
みんな元気で 仲良く通う
楽しい学校 潮見校
- 二、朝日に夕日に 空遠く
うしろきらく望みの丘に
みんな元気で 明るく進む
楽しい学校 潮見校
- 三、青山 繁山 峰遠く
育つ若木はぐんぐん伸びて
みんな元気でしっかり学ば
楽しい学校 潮見校
- 四、聞こえる明るい歌声に
つなぐ世界の 子どもの心
みんな元気で大きい夢を
のびよりのばそう 潮見校



▲親子高齢者体験。温かい心につつまれます

思いを豊かに表現できる子

自ら考え追究できる子 温かい心を伝え合える子 仲間と体をきたえ合える子

学校の教育目標

明治六年、柘植五平次宅を仮校舎として、耕文学校が創設されました。今年で創立百四十二年を数えます。創立後制度上の学校再編や南戸小学校との統合などを経て現在に至っています。地理的には、町の東部に位置し、潮南高原とよばれている、山間の自然豊かな環境にあります。標高六百六十五メートルの高さにあり、空気の澄んでいる日には、南は伊勢湾、名駅前高層ビル群、四日市コンビナート、西は伊吹山、養老山地を望むことができます。地名の「潮見」は、伊勢湾がみえることが由来といわれています。



▲敷地内の展望台から名古屋方面を望む

学校のキャッチフレーズ

昨年度から学校のキャッチフレーズを次のように変更しました。
「小さいけれどキラリと輝く学校」
←
「小さいからこそキラリと輝く学校」

沿革・地域の自然や風土

この変更には、小規模校のメリットを最大限生かそうという思いがあります。児童数が十名であること、地域に豊かな自然や文化があること、地域を支えている方から生き方を学べることなど、小さいからこそそのメリットがたくさんあります。以下にキラリと輝く教育活動を紹介します。

授業

「できるまで わかるまで」
六年生の算数の授業。児童二人に担任は一人。担任は一人一人を丁寧にみる事ができます。できない問題があったときも、なぜできなかったかという要因まで探ることが出来ます。また、発言の機会は全員に、何度でもあります。さらには、そ



▲算数の授業。個々の見届けを大切にしています

の子にあった宿題、その子に合わせた練習問題などで取り組ませることもできます。少人数のため練習合いが少ないというデメリットは、職員や地域の方などに参加していただくなどの工夫をしています。

一、六年生がいつでも一緒

昼休み。ドッジボールやフットサル、鬼ごっこなどを全校で楽しみます。一、六年生が一緒に行うドッジボール。どんなルールで？と思われるかも知れませんが、ちゃんと成立するのです。どの学年の子も楽しめるルールが子どもたちの中で自然にできあがります。下級生は先輩に対する憧れや挑戦する気持ちを、上級生は後輩に対する思いやりを日常的に学んでいます。



▲休み時間の全校遊び。仲良く10人をスイミーになぞらえ、シオミー10とよんでいます

燃えるシオミーカップ

年二回スポーツの大会を開催しています。五人ずつのグループに分かれ、フットサルなどを競います。職員もチームを作り、三チームの総当たりで優勝を決めます。
今年度の職員チームには、保護者の方や地域の方が参加！子どもたちを圧倒する予定でしたが…。事前に作戦を立て練習を重ねた子どもたちにあえなく敗戦。子どもたちのチームワークに脱帽でした。参加してくださった地域の方に感謝です。



▲地域の方と対決！?子どもの圧勝でした。

地域を教材に、本物から繰り返し濃密に学びます

地域を素材に個人テーマを設定し、年間を通して研究します。教科の授業等でも地域に出かけます。福祉施設等との交流は、年間数回、全校で行います。ネットで調べなくても目の前にある。繰り返し濃密に関わることができる。これも本校のメリットです。



▲福祉施設との交流。繰り返し濃密に関わることで家族のような関係になります。

全校で取り組む一輪車

伝統の一輪車演技。年二回元世界チャンピオンの小山美由紀先生から指導を受けています。決して易しく乗りこなせるも

イメージキャラクター

「学校や地域の良さをキャラクターに表現しよう」ということで、子どもたちからアイデアを募集しました。応募作品は二十四点。子どもの数の二倍以上です。地域の方の投票をもとに、プロのデザイナーの方に浄書を依頼しました。ニホンカモシカをモチーフに学校の銀杏や自然いっぱいの地域をイメージ。そして手には、自慢の一輪車を持っています。名前は「シオミン」。子どもたちの学校愛や地域愛が表現できました。



学校キャラクター「シオミン」

出席率100%の家庭教育学級

児童数十名で保護者世帯数八。数は少なくても、保護者の皆さんの協力体制は大きな学校に引けを取りません。昨年度からPTA本部役員会を廃止し、



5 学校の
たからもの

地域の方が先生

「子どもたちに木工を教えたくろか」クラブ潮南高原（老人会）の会長さんからありがたい提案がありました。夏休み中に木工教室を企画。三名の方が講師として来てくださいました。十名という少人数ではあっても一、六年生までの異学年の指導は大変なでは…と少し心配していましたが、取り越し苦労でした。どの学年も楽しめるよう、工夫してくださいました。



▲木工教室。地域の方の技に憧れながら、温かい交流ができました。

郡上市立八幡中学校

●住所 〒501-4221 郡上市八幡町小野8丁目5-1
●TEL (0575)67-1010
●FAX (0575)67-1011
●メール hachiman-chu@gujo.ed.jp
●生徒数 266名



▲芝桜が迎えてくれる朝

校歌

八幡中学校校歌

作詞 横関 千寿
作曲 河野 信一

一、光たたえて 湧きおこる
峡の瀬あらし 長良川
希望のしらべ 新らしき
世紀をうけて ひたすらに
伸びゆく われら
ああ八幡 八幡中学校

二、雲は流れて 幾劫ぞ
山はたたみて 幾劫ぞ
仰ぐ天地に ひろがりて
玄きにひそむ まことこそ
求めん われら
ああ八幡 八幡中学校



▲お囃子クラブの練習

「自学自治」進んで学ぶ生徒 思いやりのある生徒 強い意思でやりぬく生徒

沿革・地域の自然や風土

昭和二十四年、八幡町と川合村の組合中学校が旧八幡高等女学校跡地へ移転し、八幡町立八幡中学校として誕生しました。そして平成十六年三月、町村合併により郡上市立八幡中学校と改称して現在に至っています。本校は、郡上市八幡町の市街地にあり、近くを清流長良川と吉田川が流れるなど豊かな自然と歴史・文化にはぐくまれた地域です。

特に「水と踊りの町」として、宗祇水、鮎の友釣り、郡上おどりが全国的に知られており、年間を通して多くの観光客が訪れています。地域や保護者の方は、この八幡町に誇りをもち、郷土愛をばくくみながら生活をしてみえます。また、学校教育に対しても関心が高く、学校の取り組みや行事にはとても協力的です。

「創り上げる」生徒会活動
本校の教育目標は「自学自治」です。郡上弁でいうところの、「かいしよがあつて、まにあつ」人材の育成を目指して、日々の教育活動を行っています。

「ふるさと結びひく」生徒
生徒は郡上の学習をすることにも、地域にとび出し積極的に

会」があります。地域の関係者のご協力により、事前に鮎の友釣りの講義や実技を学び、生徒の力で開催することができました。初めて鮎釣りに挑戦した本校の女子生徒も三位に入賞しました。

他にも、郷土料理について学習した生徒は、「中学生学校給食選手権」に応募したり、郡上の風景などを切り絵で表現する学習をした生徒は、地域の公民館の文化祭に出品するなど、地域の活性化に貢献しています。



▲「子どもおどりの夕べ」お囃子演奏



▲熱気あふれる郡上おどり発表会

生徒会活動においては、「八中人権宣言（オアシス宣言）」を大切にし、自分たちの力で質の高い活動を創り上げることに取り組みしています。

特に今年度は、一年間で四つのステージ（「安心」「全力」「挑戦」「自立」）を設定して取り組んでいます。



▲創自(そうじ)



▲八中「人権宣言」の説明

をまず三年生がリードしました。特に「創自」（そうじ）。ただ学校をきれいにするだけの掃除ではなく、十五分間黙って働く黙働を行うことを通して、自分と向き合います。自分の役割を精一杯の姿で示すことやその値打ちを大切にすることが「安心」という土台を創り出しています。

第二ステージ「全力」
合唱を高め合うこと、中体連でベストを尽くすこと、自分たちで体育祭を創り上げることを目指して取り組みました。特に体育祭では、スローガン「全力」に向かって取り組み、全校二六六名が一体感・充実感を得ました。

第三ステージの「挑戦」、最後のステージの「自立」。後期はこの二つのステージを通して、質の高い活動を求め、一人でも力を発揮できる自分を創り上げていきます。

「郷土に誇りをもつ 地域の方たち」
ふるさと「郡上」について学習を進めていく中で子どもたちが気づくことがあります。それは、「地域の大人の方がこの郡上八幡が好きであること」ということです。

郡上踊りのお囃子クラブには、もう何十年も前から、地域の方が指導にきてくださっています。伝統文化を中学生に真剣に伝えようとする姿から、「郡上を誇りに思っていること」も伝わってきます。地域の方は「中学生が手伝ってくれたり、多く参加してくれたらうれしい。なって、行事が盛り上がり、本当にありがたい」と学校にいろいろな声を届けてくださいます。地域で中学生が心地よく活動できるのも、郷土を愛する地域の方のサポートが大きな宝物なのです。

未来に目を向けようとしている生徒たちに、「ようできたな」「あんばよかったな」と言葉をかけていただくことで、郡上を担っていく「まにあつ



▲1年生凌霜学習 長良川ラフティング

で学ぶ」そして三年生は「ふるさと郡上の将来を考える」と学習は進んでいきます。

三年生の学習は、八幡町の魅力や資源、課題を各自調べたり考えたりして「町づくり企画案」を作成します。その企画案が妥当か、実現可能かといった視点で考えていきます。また、企画に関する地域の関係者を訪ねたり、案の妥当性や裏付けとなるデータを収集するための調査活動、インタビュー活動をおこなったりして「町づくり企画書」を仕上げます。この企画書を郡上市市民協働センターが募集する「Good郡上プロジェクト」コンテストなどに応募しています。

企画書の提案が実際のかたちとなって実現した一つとして「中高生鮎の友釣り選手権大



▲八幡町の魅力・資源調査活動



▲実現した「中高生鮎の友釣り選手権」

わが子のあゆみ

2015.11 No.440 初冬号

表紙 飛騨市立神岡小学校

学校のたからもの 1
岐阜市立三輪北小学校／大垣市立南小学校／八百津町立潮見小学校／郡上市立八幡中学校

わが家の宝物 下呂市立下呂小学校PTA会長 田口忠幸 9

特集・講演 「ほめて育てる子どもの力」=後編 11
一般社団法人ほめる達人協会 理事長 西村貴好

家庭教育応援団! ⑩ 関ヶ原町立関ヶ原小学校 17
岐阜市立長良中学校
下呂市立竹原中学校

シリーズ「療育」②③ 岐阜県立岐阜盲学校 19

お弁当の日 高山市立西小学校PTA 21

保健室ノート 岐阜市立梅林小学校 養護教諭 長尾淳子 23

私の先生⑩ 美濃市立美濃小学校教諭 二村 治 25

子育て半生記 海津市立日新中学校PTA 会長 瀬古芳直 27

ボランティアニュース [vol.7] 29
多治見市立多治見中学校PTA
土岐市立土岐津中学校PTA
瑞浪市立日吉小中学校PTA
恵那市立武並小学校PTA

私が出会った1冊の本【続24】 31
本巣郡北方町立北方小学校PTA 母親委員長 勝 早苗
大垣市安八郡安八町組合立東安中学校PTA 広報委員長 堀 咲枝

わが家の約束 33
岐阜市立白山小学校PTA 森井直美
揖斐川町立北和中学校PTA 会長 山本正勝

子の思い・親の願い・教育の窓 35
子の思い

恵那市立大井第二小学校 3年 森澤愛利
高山市立江名子小学校 6年 森野結子
多治見市江立北陵中学校 3年 河野友基

親の願い
可児市立南帷子小学校PTA 会長 岡本未知
関市立緑ヶ丘中学校PTA 会長 山田 尚

教育の窓
養老町立上多度小学校 教務主任 佐藤礼子
本巣市立根尾中学校 教頭 若曽根隆彦

親子ではてな 40
インフォメーション 41
お試しクッキング 岐阜県学校栄養士会 42
さつまいも巻き巻き

ふるさとの伝承 43
「メノラの灯」八百津町立八百津小学校

きらり!キッズ! 45
七宗町立神測小学校

夢中!熱中!我らが部活 47
関市立旭ヶ丘中学校

私たちのPTA 49
山県市立いわ桜小学校

わが家の宝物

下呂市立下呂小学校PTA会長
田口 忠幸



わが家の宝物は、
「家族の時間」です。

私は、イタリアンレストランを経営しています。仕事は、土曜、日曜、祝日はもちろん、平日も深夜になるまで家には帰れません。父親である私だけではなく、母親である妻も同じです。
子どもたちが夏休みに入った八月。レストランの定休日の朝、子どもたちに言われました。
「朝ご飯も、昼ご飯も、夕ご飯も、今日はずっと一緒だね。」

どこのご家庭にも当たり前のようにある時間ですが、わが家では、とても尊い大切な時間です。わが家では、少なくとも貴重な時間、私たち夫婦にとっても、きっと子どもたちにとっても。

「家族の時間」に話す話題は、学校のことです。楽しかったこと、友だちのこと、うまくいかなかったこと、色々話してくれます。その度に子どもたちの体が、心が、大きくなったと感じます。私たちがしてやれないことを周りの人が、学校の先生方が、友だちが成長させてくれているのだと感じます。そんな方々に支えられてわが家の宝物があるのだと思います。

この貴重な時間をいつまでも大切にできる家族でありたいと強く思います。

「ほめて育てる子どもの力」



定期大会記念講演抜粋Ⅱ後編
一般社団法人ほめる達人協会
理事長 西村 貴好

なぜ欠点ばかりが見える？

人は、緊張したり興奮したりすると手のひらや足の裏に汗をかく。これは私達が動物から進化する過程で残された本能です。自分にとって危険なものが襲ってきた時に、地面をしっかりと踏んで走って逃げる。木に登って逃げる時に、枝をしっかりと握れる。こん棒を握って戦うとき、しっかりと握れるよう緊張したりすると手のひらに汗をかく。

これと同じように、私たちは自分の身を守ると言う本能から、自分の周りの人の欠点、あるいは出てこない所、あるいは不安材料、そういうものを見つけてしまっ

まう。子どもの悪いところばかりを見てしまう。不安ばかり集めてしまう。みな、本能がさせる仕方ないことなんです。この本能を否定するのではなく、認めたい

で、現代において私達を襲ってくるなんとも言葉に出来ない、表現することが出来ないぼんやりとした不安感。将来どうなるだろう。子どもが生きていく未来ってどうなるんだろう。景気は悪くなる、大人にも余裕が無い。そんな不安から私達を守ってくれる心のフィルター、それが「ほめ達」です。

「必ずいいところがある」と信じるプラスの心がけ

この子にも必ずいいところがあ

「見えないもの」を見る覚悟
欠点に思えるものでも、その向こうに個性と魅力と隠れた資質が必ずあるんだと信じて覚悟を決めて探します。すると、見えてこなかったもう一面が見え出します。そして自分が見えたら、今度は皆さんが補助線のような説明を入れて「これがアゴですよ、これが唇ですよ。」と言うと、あ、ホントや、この中にこんなチャンスが隠れていたんや。この人の欠点だと思っていた強気さは、思いの強さだったんだ。そのように受け止められた瞬間、この人に対する見方が変わってきます。その子に対する感じ方が変わってきます。

というように、物事のもう一面を見つけれられるようになる人。ぜひ皆さんも欠点が目についていたり、不安を感じたりする中で、それでもなおいいところが必ず隠れているんだと、その覚悟を決めて周りを見渡してください。すると、今まで見えていなかったささやかな感謝、思いやる心、そ

る。この出会いが私たちに必ずプラスのことがあるというフィルターをかけることによって、皆さんの心の中にまず安心が生まれま

す。その安心が、プラスのアイディア、プラスの言葉、プラスの表情を作ってくれるんです。その自分の心を守ってくれたフィルターを使っ

て、今度は皆さんが周りの人にプラスのアイディア、プラスの言葉、プラスの表情をどんどん伝えていくんです。すると皆さんは、周りの人に安心・安全な場 空気・雰囲気を作ってくれる人になります。すると、人は元気になる。子どもたちも元気になる。プラスの勇気を得てくる。自分はこれでいいんだ。生きていく価値があるんだ。生まれてきた意味があるんだ。そういうことに気づきます。

石ころかダイヤモンドか

今は時代が暗いので、「ほめ達」がともす小さなろうそくの光が本当に温かくて、明るくて、有り難

い話を聞く時に、これをやってみるか？と言うことです。これをやると、相手の自己有用感がものすごく上がるんです。すごく高まります。話を聞いている最中に、「ちょっと待って、それすごいね、それメモとるわ、待ってて。」と言うんです。すると話をしている相手の方に自己有用感が高まってきます。「えつ、私、そんなに

なる話してたんやろか？メモとるなんて、私ってこれでも、けっこう役に立ってるやん。」と。これは是非、意識してやってください。

相手を高める話の聴き方

これを子どもさんにされると、めちゃめちゃチャンスになります。話をしてる方と話を聴いている方、どちらが相手にメッセージ伝えますか？直感的には、話をしている方が圧倒的に聴く方にメッセージを伝えているんです。が、実は話の聴き方で相手にメッセージを伝えることが出来るんです。今も皆さんは、話を聞きなが

いんです。そしてそこに人が集まってきます。暗闇の中のろうそくだということです。ろうそくの光って言うのは、分けても分けても元の光は無くなりません。元の光は減らずに、周りにどんどん広がっていきます。

どれほど高価なダイヤモンドでも、光が無ければただの石ころです。真つ暗闇の部屋の中、床の上にダイヤモンドが置かれた。そこを誰かが裸足で通るかかった。ダイヤモンドをギョッと踏んだ。痛い、痛い。誰！こんな所に石ころを置いて。真つ暗闇だからダイヤモンドは捨てられた石です。ところがそこらうそくの光がともっている、あ、こんな素敵なダイヤモンドが隠れていた、と見つけることが出来るのです。

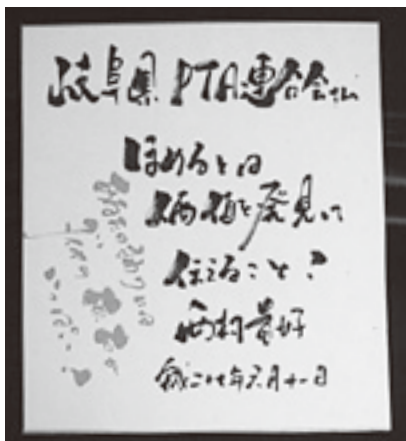
皆さんの周りには、ダイヤモンドの原石が一杯なんです。皆さんの子どもさんは、本当にダイヤモンドなんです。そこに光を当てるか、真つ暗で捨てられた石として踏まれてしまうのか、です。

らメッセージをものすごく私に送ってくれてるんです。皆さんの話の聴き方が本当に素敵なので、私はあの話もしたい、この話もしたいと、息継ぎも忘れて話がどんどん出てくるんです。

皆さんが話の聴き方が自分のプレゼンテーションなんだ、表現力なんだと決めると、皆さんの人間力・表現・人生の中のチャンスが一気に広がります。

このようにして、皆さんの子どもさんが皆さんの影響をうけて話を積極的に聴くようになるとめちゃめちゃチャンスが増えます。話の聴き方でファンを作ることが出来ます。

具体的に言いますと、皆さんの子どもさんが将来、就活に行きました。集団面接で「順番に貴方の好きな言葉、座右の銘を教えてください」と、順番に言っていくます。子どもさんも素晴らしい言葉を言います。そして横に並んでいる人の話を聞いて「へー、それ面白いな」と言って、お子さんがメモを取ったら、皆さんの子どもさ



んが採用です。自分も立派な事を言いましたが、横の自分のライバルの言葉を聞いて「それすごいな、勉強なるな」って言ってメモ取ったら、「この子この先どんなだけ成長するやろ、この子の成長楽しみや」となるんです。

皆さんの何気ない行動が子どもに移っていくんです。

親の影響で子どもは変わる

重要なことなのですが、私たちは他の人を変えることはできません。子どもであっても変えられませんが、皆さんお気づきのように、人は自ら気づいて自分から変わることはできて他人を変えることはできません。人には、影響を与

えることしか出来ないんです。そして周りの人に与える影響、子どもに与える影響は、皆さん自身にとって一番いい影響なんです。特にこんなことがあります。相手が影響を受けているように思えない時、それでもなお、その人のことを信じてあげることが出来る。それが誰にも奪われない本当にしなやかな大きな強さなんです。それを是非皆さんは知っていてください。

ピュアな感性をそのままに

子育てって本当に素敵だなんて言う話を一つすると、私には子どもが三人女男女と居るんですけど、長女が小学校三年くらいの時、夜ファミレスから出てきた時に夜空を見て、「あ、パパ。上弦の月や。」って言ったんです。「すごいななっちゃん、そんな言葉知ってんのや、パパ尊敬するわ。」って言ったんです。「でもな、なっちゃんが同じような景色を見て、三歳くらいの時、こう言ったんだ

よ。『あー、お月さんが空に食べられてる』って。」「へ、そんな可愛いこと言ったん？覚えてないわ。』。どういうことかと言うと、子どもから大人になって知識をどんどん覚えていく中で、自分の中にある本当に素敵な感性というもの悲しいかな、どこかで置いてきてることもあるかもしれない。子育てって言うのは、自分にもそんな感性がもしかしてあって、失ってきたのかな。そういうことを子どもから教えてもらう。あるいは、子どものそんな感性を覚えておいてあげて、それを子どもが大きくなった時に伝えてあげる。これも子育ての親の大きな役割かなと思いつつ、本当に子育てって素敵やなって思います。

ほめ言葉は 幾つお持ちですか？

ほめ達検定の中に自分が言われて嬉しい言葉と言うのを、出来るだけたくさん書き出してくださいというのがあります。

この問題には意味があります。自分の周りの人や物、起きる出来ごとの価値を発見して伝える「ほめ達」が誰の価値を見つけるかと言うと、自分自身なんです。自分のことを認めにくい人はなかなか周りの人の価値も認め難いから自分の価値を見つけ、自分のことをほめてあげましょう。今現在どれくらいほめ言葉を持っているか、数を確認してみましようという意味です。実際には、なかなか沢山出て来ません。よほど普段から意識しないと出てこないです。

その子が生まれてきてから今までに、自分にくれた事でどんなちっちゃなことでもいいので「ああ、この時は嬉しかったな」「この子が私の子として生まれてきてくれてよかったな、嬉しかったな」ってことを、エピソードで思い出してください。嬉しかったは、「ありがとう」につながります。

感情のコントロールで生まれる余裕

皆さんにはまだお孫さんはいらっしゃらないと思いますが、「自分の孫のテストの成績が下がった」とします。仮の問題として想像してみてください。「あ、そんな時もあるよね。受験の直前でなくてよかったよね。そら人間やから、波もあるよね」という具合に、ちよつと余裕を持って考えることが出来るんです。

ところが、これが孫でなくて「自分の子どもテストの成績が下がった」と思うと、全然違うことになるでしょう。これは実は関係性に

よる感情の問題なんです。感情が厄介なんです。これを分かっておけばいいんです。なぜ自分は今の状態がこうなってるんかな。あ、感情が動いてるからや。それをちよつと知るだけで、感情から解放されて元に戻ります。

また自分の愛する子どもなので、感情が動くんです。自分が一番いやな所のコピーをしているんで感情が動くんです。そこを知っておくということが、先ず大事なんです。感情は動いてもOK、ただそこに気づいた瞬間、感情から解放されて元に戻ることが早くあります。ですから、子どもも二人目、三人目、四人目となっていくとだんだん感情が元に戻って「あ、そういうこともあるよね」と余裕が持てるんです。

結果よりもプロセスを

で、どういうときに感情が動くか。ここを皆さん、知つていてください。もう分かれますね、成績、テストの点数。それを見た瞬間に

感情がズバーンと動いてもうほめること忘れます。ですから幼稚園とか小さい時はほめてあげれたから百点満点になった、成績が五段階評価になった時からもう褒められなくなつた。これは、数字を見て評価してしまうからです。それも、分かっておればいいんです。

PTA会長さんたちの話を聞いてみると、今の子どもたちは褒められていないんだな、と感じます。例えばテストで六十点だった。「なに！この点数！」。頑張つて八十点になった。「何処を間違えたの？」。やつと百点取れた。「他に何人いたの？」。褒めてもらえない子どもたちは、自己肯定感など持てないはず。子どもを褒めてやってください。数字ではなく、頑張つたという行動に対して、もつと褒めてやっていただきたいのです。出来ないことが一つでもできるようになつたら、褒め惜しみをしないで、そこを褒めてやってください。トータルがマイナスでも、褒めるチャンスを見つけて、褒めてやってください。

価値を認め、褒めて伝える

ある幼稚園でこの話をしたところ、あるお母さんから言われました。

「分かりました。この話で分かりました。うちの息子、片付け全然しないんですが、クツだけ揃えるんです。ある時にうちの息子が友達の家へ遊びに行ったんです。その時、普段はまだクツ揃えていなかったのに、たまたま息子がクツを揃えたんです。そこで友達のお母さんが「ウー、偉いね、クツ揃えられるんや。おばちゃん、尊敬するわ」って言ったんですね。それ以来、揃えるようになったんです」。

何度も言いますが、子どもには褒めるべき点が必ずあるんです。そこを伝えてあげると、どんどん出していきます。そういうような接し方をしていただければ、と思います。尊敬に対しては裏切らなくて、プラスのすごい習慣になります。



子どもに対して尊敬を伝えていきましよう。子どもに対して、いいところをどんどん伝えていくと、皆さんの心が豊かになり、自分はまだまだ成長でき、まだまだ豊かになれるんだ。そういう大人が増えだします。その第一歩が皆さんです。実践してみてください。

褒める人自身が豊かになる

人間の脳は、特に話し言葉において自分と他人を区別できません。即ち、誰かのことを良く言う、それは自分にプラスの暗示を掛けるのと一緒。誰かのことを悪く言う、それは自分に対してマイナスの暗示を掛けるのと一緒。と言うことで、皆さんは子育ての中で自分の周りの子どものいいところを一杯見つけていくと何が起きるかと言うと、ほめる子育てを

する親ほど、どんどん自分が豊かになってくるということです。そして、自分の心に余裕が出来るから子どもとの接し方も良好な関係になり、子どもにも余裕が出来て相乗効果がどんどん進みます。これが「ほめ達」効果です。ですから、先ず自分が周りの人のいいところを見つめる。そしてこれは対子どもだけではなくて、自分の周りの大人に対してもそうです。

3Sプラス

「ステキ！かんぺき！」

スリーエスプラス1. これを使うだけで、皆さん「ほめ達」になってしまいます。それはSで始まるこの三つです。「すごい・さすが・素晴らしい」。そして女性の場合、これに加えて「ステキ」を足していただくもつと「ほめ達」になってしまいます。これを口癖にしてください。

最近、すごくシンプルな言葉を見つけました。それは、出来るよ、大丈夫だよ、OKだよ、って

「自分が愛されたという記憶は、誰かを愛するという資質を育みます」

また「ありがとう」というのは自己肯定感、自己有用感をすごく高め、自分はこの世に居ていいんだ、誰かの役に立っているんだというメッセージを同時に送っているんです。娘が中学生の時に、校長先生から聞かせていただいた話にこういうのがありました。素晴らしい言葉で、今でも覚えています。

「子どもが手を離れても、目を放さないでください。目を放したとしても心は放さないでください」と仰いました。そして「自分が愛されたという記憶は、誰かを愛するという資質を育みます」と仰っていました。

ここに来られている皆さんは、本当にお子さんを愛していることには間違いないと思いますが、それをお子さんが愛されているんだと言う記憶にまで留めるくらい、行動で伝えてあげてほしいんで

言う代わりに使う言葉。これを言われると相手は誇らしく感じる。それは「かんぺき」です。何かがうまく出来ている時に「かんぺき！」と言ってやるいいと思います。

中には、皆さんがこれは褒めたらあかんわ、と言う場面があります。「何を考えているんや、全然違うやないか」と言うときに、そのまま言葉にしてしまうと、相手の心がポキンと折れたりして関係性が悪くなります。こう言うときに「ほめ達」はどう言うか。「そうくるか」と言います。ものすごい軽い言葉です。軽い言葉ですが相手の心と自分の心の両方を丸めてくれます。間違いを、違いに丸めてくれる言葉です。「うーん、そういうふう考えたのか」と、お互いに守られる言葉です。

惜しい！

あと、ここ直してほしいな、と言うときに相手が聞きたがるシンプルな言葉。それはまず「惜しい」。

す。心は見えないけど、心遣いは見える。思いは見えないけれど、思いやりは見える。行動にして伝えてあげてください。「ありがとう」という言葉にして伝えてあげてください。

子どもが輝くのは「褒める・認める」から

心の視野が広がると、皆さんの子どもさんのいいところが、いっぱい見えて来るようになるんです。隠れた資質や才能をいっぱい持っているお子さんに、それを踏まえたアドバイスをしてあげることで、他の誰にも見せなかった大きな成長を、見せてくれることが出来ます。そしてほめて伝えると、最高の返事即ち行動がもらえます。私たちの周りには子ども達はダイヤの原石です。石ころに見える石ころの中にほんの少し輝いているところを探して、皆さんが一生懸命に磨いて、その微かな輝きに、ほめる・認めるというスポットライトを当

「惜しいな」って言われると、もう少しで出来るんやな、と励まされてるように思う。これは相手がすごくアドバイスを受け止めやすくなります。ところが、惜しいっていうのは、使えそうでなかなか使えないんです。直してほしいところは一個じゃなくて、二つも三つもあるからです。だから、つつい相手は聞く耳を無くす叱り方をしてしまうんです。「あなたね、いつも言うてるでしょ。これとこれとこれ、今回また同じこと言わせて」と。すると子どもは「どうせ直したって、僕のこと思ってくれてないよね。」と思ってしまふ。ですから、ぐどぐど言わないで「惜しい！」。シンプルな一言で全然違う受け止め方をしてくれるんです。僕のこと、認めてくれる、と感じさせる言葉です。

ありがとう

そしてもう一つ。今日の中村会長のご挨拶の中にもありました。それは「ありがとう」です。人は

ててやる。すると石ころじゃなかなと思っていた子ども達が、ウワーッと輝きます。エーッ、俺たち、私たちこんなに輝いているんや！と子ども自身も気付く輝き合います。

親も美しく輝ける

すると、こんな疑問を持つ人がいます。私の周りはいいいね、輝いてて。じゃあ私には誰が光を当ててくれるんですかと。安心してください。人が最も美しく見えるのは、陰影がきれいに出来る間接照明です。皆さんが周りを輝かせれば輝かせるほど、その輝きの真ん中にいる自分が、実はその照り返しで最も美しく、最もきれいに輝いているんです。今日、私の話を聞いていただいて、そういう「ほめ達」っていう生き方、「ほめる達人」っていう子育てをしていただければいいなと思います。

終

実践紹介3 下呂市立竹原中学校「学校行事&体験活動参加型」

ポイント ○行政・地域と連携して開催する「命のふれあい講座」

願 い 自分の存在する意味を考えてみよう。そして自分も命のバトンを引き継ごう。

講 師 下呂温泉病院助産師・妊婦・NPO法人サンはぎわら

対 象 3年生27名

活動内容 ①ビデオ 「命のはじまり」 生は性に繋がる あなたが生まれた確率は1/250兆

②保護者 母親代表の話（自分が今の中3の娘を産んだ時の話）など。

②体験活動

- ・妊婦体験ジャケット着用・胎児の心音（ドップラーの音）を聞こう
 - ・お父さん立会いによるお産劇 PTA会長さんが父親役で出演
 - ・胎児体験 NPO手作りの産道を使用
- 暗闇の中で「よくぞここまで大きくなった。今日2度目の誕生日。これからも自分を大事にして」と職員より声をかけていただく。生まれて来た時には、周囲から「おめでとう」の声をかける。



感想

生徒 ・妊婦ジャケットは、重すぎた。足元は見えないし、転びそうだった。横向きで寝ても苦しそう。苦労して産んでくれたんだなと思った。本当にありがとう。

保護者 ・息子は初めての子で、生まれてくる時には心配で・・・本当はこの役を引き受けるのがイヤだったのですが・・・でも、人の命は本当に大切ですね。息子が大人になったら、この父親役をやって欲しいと思っています。

PTA会長を始め、母親（委員）の出席が11人もありました。中学3年生27名を前に、PTA会長は、お産劇のお父さん役になり、母親代表が、わが子の生まれた時の思い等を語りました。子ども達は、飾らないけれども言葉の端々に滲み出る保護者の言葉に深い愛を感じとっているようでした。

この講座は、下呂温泉病院の助産師・妊婦さん、ふれあい講座のスタッフなど地域の方々を始め、学校挙げての取組となっています。行政の力も借りながら、みんなに支えられて、「自分だけの命」ではないことを実感できた一日でした。

実践紹介1 関ヶ原町立関ヶ原小学校「体験活動参加型&子育てサロン型」

ポイント ○楽しい活動を通して親子で「話そう！語ろう！」その後子育てサロンで保護者の交流

願 い 親子で楽しく活動し、仲間と一緒に学ぼう。

講 師 NPO法人ものづくり塾エジソンの会

対 象 児童と保護者

活動内容 ①親子で楽しく活動
「サイエンスワークショップ」
スライム・人エイクラ・プラ板
紙飛行リング・空気砲
②親と子のそれぞれの活動
児 童…紙飛行リング大会
保護者…子育て交流サロン



感想

子ども ・スライムを初めて触ったけれど、プニプニして気持ちよかった。
・紙飛行リングがうまく飛ばせなかったので練習したい。
・面白い実験がいっぱいで楽しかった。

保護者 ・身近な材料で子どもたちが楽しめていて、すごいなと思いました。
・子どもと一緒に（子どもより？）楽しんでしまいました。

子どもたちが、紙飛行リング大会をしているときに、保護者のみなさんは、講師の方から「理科好きな子に育てるには」「子どもの質問にどう答えるか」等、話を聞きました。その後、グループごとに活動の感想を交流することで、保護者同士が仲良くなりました。

実践紹介2 岐阜市立長良中学校「体験活動参加型&子育てサロン型」

ポイント ○笑顔で楽しく体を動かしながら、子育ての秘訣が学べるリンパ体操

願 い 体も心もリフレッシュしながら、子育ての秘訣を学ぼう。

講 師 リンパセラピスト 中内郁子さん

対 象 保護者

活動内容 ①第1回家庭教育学級「子育てサロン」報告
・ブレインストーミング法による「子育て意見交流会」
結論を出さない意見交流会であったため、多くの方の意見が出て、お互いに学び合うことができた。公平性があり、満足感があつた。
・校長先生の講話
②リンパ体操「OWARAリンパ」
「笑（わら）今（いま）笑（しょう）」
③子育て交流会



感想

・自分に自信がもてました。子どもに「～できる。」と声をかけ、自信をもたせたいです。
・自分にも子どもにもポジティブな言葉をかけると、やる気が出てくることを学びました。家に帰ったら、直ぐに実践してみたいです。

リンパ体操終了後、講師の周りには次から次へと人が集まり、交流がされました。保護者同士でも笑顔で語り合う姿がありました。子育てのヒントを積極的に学び、みんなが笑顔になる家庭教育学級になりました。

☆家庭教育プログラムをご活用ください☆
家庭教育プログラムとは、身近な出来事をもとに、参加者同士が少人数のグループで話し合い、家庭教育について学び合うための手引きです。子どもの発達段階や参加者のニーズに応じた内容を取り上げることができるよう、乳幼児期編、小・中学校編ともに二十のプログラムを作成しました。
このプログラムには、基本的な生活習慣、思いやり、命の大切さ、社会のルールなど、家庭教育の重要なテーマについて交流ができるよう、ワークシートや家庭教育学級の進行案、資料を掲載しています。和やかな雰囲気での交流ができるように、アイスブレイクも紹介しています。ぜひ、家庭教育学級や学級懇談会等でご活用ください。

○学びが深まる一工夫

多くの家庭教育学級で、楽しみながら学べる場にして、学びを深めたいという願いをもつて工夫されています。例えば、どうすれば学びが深まるのか、どうすれば学んだことを多くの仲間にも伝えられるのか、それぞれの学級の実態に合わせた工夫があります。

保護者の学びを深めるために、「子育てサロン型」を取り入れた家庭教育学級が増えました。今回紹介した3校では、「体験活動参加型」に「子育てサロン型」を組み合わせ、活動の内容を充実させたり、参加者がより満足し、より学べる学級になるよう工夫があります。互いの学級の工夫を参考にしながら、よさを取り入れてみてく

編集後記



県のホームページでは、他にも家庭教育学級の情報を発信中！ぜひご覧ください！！

ー掲載内容ー

- ・平成23～26年度家庭教育学級の実践
- ・家庭教育学級運営マニュアル「みんな子育て」
- ・家庭教育プログラム「みんな子育てⅡ（乳幼児期編）」
- ・家庭教育プログラム「みんな子育てⅢ（小・中学校編）」

岐阜県 家庭教育学級

検索

お気軽にご相談ください！
各教育事務所には、家庭教育推進専門職員がいます。家庭教育学級や企業内家庭教育研修等、内容から講師選定までご相談に応じます。
岐阜教育事務所 058-278-3059（直通）
西濃教育事務所 058-473-1101
美濃教育事務所 057-533-4011
可茂教育事務所 057-425-3341
東濃教育事務所 057-111-1111
飛騨教育事務所 057-331-1111



障がい克服し、互いに助け合い、明朗で、たくましく生きる力を身に付け、社会に貢献できる児童生徒を育成する

1 岐阜盲学校で学ぶ児童生徒たち

岐阜盲学校は、明治二十七年に創立され、今年度創立一二二周年を迎えた歴史のある学校です。平成二十七年の児童生徒数は、小学部九名、中学部十三名、高等部普通科九名、保健医療科六名、専攻科九名の計五十名となっています。児童生徒の見え方は様々で全盲の人から、弱視の人、視野欠損を有する人など、個々の見え方に対応した配慮や支援を必要としています。また、約半数近くの人が寄宿舎に入舎し通学しています。保健医療科や専攻科には一旦社会に出てから視覚障がいとなられた方が学んでおり、年齢も幅広く五十歳代の生徒もいます。

2 教育課程と授業

盲学校の教育課程は、大きく分けて三種類あります。小学部から

高等部本科普通科までの通常学級に在籍する児童生徒は、通常の小学校・中学校・高等学校に準じた教育課程で学んでいます。一方、重複障がい学級に在籍する児童生徒は、領域教科を合わせた指導（日常生活の指導・生活単元学習・作業学習）と教科・領域別の指導を組み合わせた教育課程で学んでいます。また、高等部本科保健医療科と専攻科理療科では、あんま・鍼灸マッサージの専門教育を学び、職業自立を目指しています。

それぞれの授業場面においては、個々の児童生徒の見え方に配慮して、点字教科書や拡大教科書、実物模型やプリント教材等を使用しています。

3 様々な行事をとおして

全校で行う主な行事は綱引き大会（六月）、運動会（九月）と文化祭（十月）です。児童生徒代表の実行委員会が中心となってテーマ決定準

備・企画・運営を行っています。行事に全校で取り組むことを通して互いを理解し合い、励まし合える関係が育まれています。

盲学校独自の行事では、「お話と弁論の会」「全国盲学生短歌コンクール」があります。児童生徒が自分の主張を持ち、堂々と発表できることや感性豊かに言葉で表現できることを大切にしています。

学部別の行事では、今年度は、自然体験学習として、動物と触れ合う体験、ラフティング体験、雪山体験、農林高校での農業体験などを行います。積極的に校外に出かけ、様々な体験的な学習を通して、具体的なイメージを形成することや自ら学ぶ意欲を育てることが目的です。

4 教育目標と目指すもの

本校の教育目標は「障がいを克服し、互いに助け合い、明朗で、たくましく生きる力を身に付け、社会に貢献できる児童生徒を育成する」で

校内の二カ所に設置されることになりました



（翌月からホームページにも掲載）。保護者と学校がより仲良くなれる場を設けた「おやじの会」の立ち上げ等の提案がなされ、有意義な時間をもつことができました。

② 親子活動について

親子活動は年二回計画し、年齢に関係なく楽しめる活動を目指しています。平成二十七年の一回目は、夏休みに「夏祭り」を実施しました。プールに入った後、地元の葡萄に舌鼓を打ち、金魚すくいやトイレットペーパー積みゲームを行った後、コンサートを行いました。二回目は、「親子クッキング」を計画しました。保健医療科や専攻科の成人の生徒さん

らもいろいろなアイデアを出し合っ



ても多くの会員が参加でき、生活経験を広げること

③ PTA懇談会について

一学期の終業式の日「PTA懇談会」を行っています。卒業生の保護者を招き、子どもとの歩みや進路決定に至る過程、卒業後の仕事や生活などについてお話ししていただきました。具体的なお話を聞いて、参加者からは沢山の質問が出されました。また、二学期の終業式後にPTAフォーラムを計画しました。学校と保護者が共通理解を図り、同じ歩調で子ども達の成長を支援していけたらと思います。

④ 文化祭バザー・ベルマークの収集・奉仕活動について

秋の文化祭には、豚汁やフランクフルトなどの模擬店を出店したり、日

用品のバザーをしたりしています。



前日からの仕込みで準備は大変ですが、皆さんの喜ぶ顔が見られることで、張り切って実施しています。二日間の作業には多くの保護者が役割分担をして参加します。また、年間通してベルマークの収集活動や年三回の奉仕活動（校内外の掃除）をしています。

⑤ 点字ブロック理解推進活動の実施

全国盲学校長会・PTA連合会の呼びかけを受けて、毎年三月に実施します。啓発チラシ入りのテッシュを配布し、「点字ブロックの上」に立ち止まらな



す。この目標の実現のために、教科指導では一人一人が自ら学び、自ら考え行動できる力を育成し、確かな学力の定着を図ることを重視し、点字や拡大教材、音声教材等を積極的に活用したり、教材研究や指導法の工夫を重点に取り組んでいます。また、全教育活動をとおして、命を大切に

5 PTA活動の紹介

① 校長先生と語る会「おしゃべりサロン」

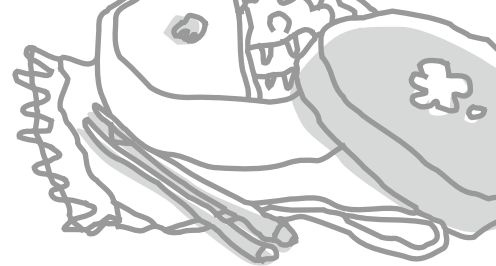
五月、新学期が始まり、新しい環境に慣れてきた頃、校長先生とお茶を飲みながらざっくばらんに話をする機会をもっています。校長先生から、自分自身についてのお話をお聞きし、それをきっかけに日ごろ感じていること、親として学校に望むことなどを出し合いました。今年

は校長先生執筆の「校長室だより」が話題となり、保護者も読めるようにい

6 PTA会長としての保護者の思い

岐阜盲学校には、小学生から大人まで幅広い年齢の生徒が学んでいます。恒例の綱引き大会では、小学生チームと大人チームが対戦し、全校が応援する中、小学生チームが勝利し盛り上がりしました。弱視の人が全盲の人を手引きする光景も日常で、本当にアツトホームで微笑ましい温かい学校だと感じています。先生方も生徒一人一人を理解し、どうすることが一番良いことなのかを保護者と緒に考えてくださり、子どもたちが楽しく学校生活を送っていることを有難く思っています。

私自身が子どもとともに成長してきたつもりですが、私たち家族も多くの人に支えられて生きています。子どもが盲学校に通い、得たものは私たち家族にとってもかけがえのないものとなりました。これからも、子どもたちがより良い生活を送ることができるよう学校と保護者が協力していき



お弁当の日

高山市立西小学校PTA

「食べるということ」について、様々な経験を通じて知識とその大切さを子どもたちに伝えていくことに取り組んでいます。

一、「お弁当の日」活動経過

私たち西小学校PTAは、平成二十四年度より、「親子で作るお弁当の日」と題して、生きる上で基本となる「食べるということ」について、様々な経験を通じて知識とその大切さを子どもたちに伝えていくことに取り組んでいます。

平成二十四年度は、五・六年生を対象に「おにぎり作りにチャレンジしよう」を実施しました。実施後のアンケート結果を踏まえ、子どもたち、保護者とも無理がなく取り組めるようAコース…一品は自分で作る、Bコース…家の人と一緒に作る、Cコース…家の人を作ってもらったおかずを自分の弁当箱に詰めるという3コースを設定しました。また、第一回「おかず作りにチャレンジしよう」、第二回「お弁当作りにチャレンジしよう」と題し、継続的な活動として会を重ねることにステップアップする形で実施をしてきました。平成二十五年度からは四年生も加わり、四・五・六年生対象に前年度実施した「おにぎり作りにチャレンジしよう」を夏休みの課題として「夏休みにおかずを外して親子でじっくりと挑戦できる形に変更しました。その際「お弁当メニューチャレンジシート」を配布し、子どもたちに作り方や感想などを記入させる形式とし、作り方のコツや材料などを調べたり、聞いたりする機会を通じ、食への関心がより深まるよう工夫しました。十一月には夏休みの課題を基に第一回「お弁当の日（夏休みに取り組んだおかずを中心にチャレンジしよう）」として調理体験したおかずを中心に「お弁当作りに発展しました。第二回は同様にお弁当を作りましたが、六年生については自分のお弁当だけではなく、家族のお弁当つくりにも取り組む企画としました。



二、「お弁当の日」を行ったことで、

大人と子どもの感想

子どもたちからは、「自分で作って楽しかった」、「自分で作るとやっぱりおいしい」、「自分でも作ることができてうれしい」、「給食は有り難い」、「親の大変さが分かった」など親への感謝を感じる意見が多く聞けたことは大変喜ばしいことだと感じています。また、「新しいおかず作りに挑戦したい」など次回の開催を楽しみにするたくさん感想を聞けたことも大変意義のあることだと感じています。保護者からは、「子どもと一緒に作れてよかった」、「自分自身でつくるという経験はよい」などの肯定的な意見がある一方、「朝の忙しい時間にお弁当を作るのは大変」、「普段から手伝いをやっているからお弁当を作る意味がわからない」などの感想もあり今後検討していく必要性を感じています。

三、保護者への願い

近年、子どもたちの脂質の過剰摂取や野菜の摂取不足、朝食欠食などの偏りや、食生活の乱れが話題となることも多く、お弁当づくりの経験を生かして子どもたちが大人になった時に健全な食生活を实施することが出来ればと願ひも込めてこの企画は行われています。しかしながら、「お弁当の日」を実施する為には、保護者の皆さんの協力が必要不可欠なことは事実です。少なからず負担をかけることにはなりますが「お弁当の日」への取り組みを通じて買い物に行く、野菜を切る、お弁当箱を洗う、お弁当におかずを詰めるなど何か一つでも子どもたちがお弁当作りに携われるよう働きかけをして頂くことが、子どもたちの食への関心を高め、食について考えるきっかけを与える機会となることをご理解いただけるよう、機会あるごとに話題にしていきたいと考えています。

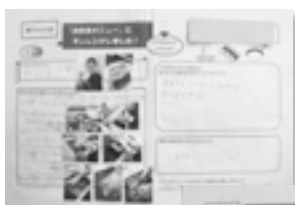
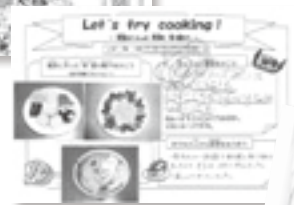
四、課題と今後の計画

わたしたちは「お弁当の日」と合わせて地元の講師をお招きし、四年生を対象に「地場産業学習会」、五年生を対象に「飛騨郷土料理教室」を実施しています。

理教室」を実施しています。

「地場産業学習会」では、昨年度は高冷地野菜として全国的有名なトマトの成長過程と野菜の大切さなど、今年度は牛（乳牛や肉牛）の誕生から成長、酪農に関わる人々の様子を学びました。また「飛騨郷土料理教室」は、親子調理実習を通じ子どもたちに地元の料理を伝えることを実施しています。

グローバル化の中で、郷土への愛着が薄れていく感が強いこの頃ですが、一連の事業をきっかけとして食の重要性に加え、私たちの生活する地域が持っている他地域に誇れる豊かな食文化、地域の食文化を子どもたちに感じてもらい、地域のアイデンティティーとして後世に継承していく一助になるよう継続的な活動をしていこうと思っています。



～食育への生かし方～

27 年度 学校給食調理発表会 作品集①

岐阜県学校給食会 理事長賞
恵那市学校給食センター

チーム名 「美濃路の実り」



<献立> 栗ごはん・牛乳・かぼちゃの包み揚げ
香りあえ・とうがんのみそ汁・ミニト
マト

<献立について>

東濃地方の特産物「栗」を使いたいと考え、主食を「栗ごはん」にしました。主菜は、旬のかぼちゃと椎茸、ハムを炒めてしょうゆで味付けし、枝豆を彩りに加えたものを、春巻きの皮で包んで揚げました。副菜の香りあえは、キャベツ、人参、たくあん、青じその千切りに、恵那市山岡町の名産「細寒天」を加え、噛み応えのあるさっぱりしたあえ物です。みそ汁は、冬瓜があっさりしているので、こくがでるよう厚揚げを組み合わせました。

(献立作成者) 栄養教諭 藤田浩子
(発表者) 曾我清和・林 智子・加藤千浪

資料提供… (公財) 岐阜県学校給食会

school infirmary

保健室ノート

●岐阜市立梅林小学校 養護教諭
長尾 淳子

元気！梅っ子

「身長測らせてください。」

六年生のAさんは、定期的に保健室に身長を測りに来ています。

「全然伸びてないわ。先生どうしたら身長伸びるのかなあ？」

彼女の目標は、百六十cmになることです。

保健室を来室する子ども達の様子を見てみると、塾や習い事で忙しかったり、夜遅くまで起きていたりと生活リズムの乱れが体調不良につながっていると感ずることがあります。そこで、実際にどのような生活を送っているのか、全校児童を対象に生活習慣アンケートを実施しました。

なかなか行動に移せない子も、なぜ早く寝ることが大切なのか、何のために早く寝るのかを理解することで生活習慣の改善に結びつくのではないかと考えています。

百六十cmを目指しているAさんは、将来就きたい職業があり、その夢の実現のためにも身長を伸ばしたいのだそうです。

梅林小学校の「梅っ子」が、ずっとずっと「元気いっぱい、笑顔いっぱい」夢に向かって成長するように応援しています。そして、保健室では、何より大切な健康をみんなにプレゼントしたいと思っています。

意識面では、睡眠(早寝・早起き)、

バランスのよい朝ごはん、運動が大切だと思っている子は九十%以上で、健康な生活を送るためには、生活習慣が大切だと捉えていることがわかりました。

ところが、実態を見てみると、早寝・早起き、バランスのよい朝ごはんが、おむねとれていている子は約六十%程です。『早寝・早起き・朝ごはん』が大切なこととわかっていても行動につなげるのは難しいことがうかがえます。

学校では、健康について学ぶ時間があり、保健室では、発育測定や各種検査の時間に健康指導を行っています。

六年生には、睡眠と成長についての話をしました。

「身長の伸びには、どんなことが関係していると思う？」

「ジャンプ。」

私は、健康指導を行う度に、子ども達に言っています。

「今だけでなく、みんなが大人になってもおじいさん、おばあさんになっても健康に過ごすことができるように、今から気を付けていこうね。」



「カルシウムをいっぱい摂る。」

「遺伝。」

それぞれ自分の思いをつぶやいています。まず、身長が伸びるといいうのはどういうことかを実感させるために骨の模型を準備しました。成長の止まった大人の骨とまだまだ成長する子どもの骨を比べてみます。軟骨部分がぐんぐん伸びる様子が歓声があがりました。

その後、早く寝る人と遅く寝る人の成長ホルモンが分泌する量の違いをグラフで確認し、午後十時から午前二時の間にたくさん成長ホルモンは出ているから、身長を伸ばそうと思ったらこの時間帯に寝ていることが大切だということをお伝えしました。

「やばい！」

夜遅くまで起きていることの多いBくんは、自分の生活を振り返り思わず声が出ました。

「早く寝なさい。」と言うだけでは、な

「だちかんぞ」から感じた 担任の先生の愛情と信頼

美濃市立美濃小学校 教諭

二村 治

これまで、自分を育ててくださった多くの先生方への感謝の思いは絶えません。担任の先生との関係は、多くの場合一年間ですが、思い出はずつと残ります。

私の気持ちに気付いてくれた先生

私は小学校六年間、元気に過ごすことができました。それも小学校の先生方が、安心できる学校づくりや仲間づくりを行ってくださったからだと思います。当時はまだ土曜日の午前中に授業があったので、土曜日の午後は、野球やソフトボールに明け暮れ、休み時間はドッジボールを時間を惜しんで楽しんでいました。この頃は子供の人数が多く、全校で千人を超す児童数でした。同じ町内にも、二十人以上は小学生がいました。当然、帰ってから近所の子供たちと遊び、けんかもしていました。悪いことをすると、上級生が本気になって叱ってくれたり、他の町内の子にいじめられると助けてくれたりしました。下級生や困っている子を助けるといふ繋がりが自然とできていました。

そんな日々を過ごしていた私ですが、嫌なこともありました。あだ名で呼ばれることはよくありましたが、どうしても嫌でたまらない呼び方をされていたのが六年生の頃でした。だんだんクラスにも広がっていき、いじめられていたわけではありませんが、そのあだ名は嫌でたまりませんでした。自分から、みんなに呼び方を変えてくれるように言えばよかったのですが、なかなか言うこともできずにいました。その嫌なあだ名を止めてくれたのが、六年生の担任の先生でした。クラスみんなの前で話していただいたのです。それを境に、嫌なあだ名は止まりました。自分から担任の先生に頼んだわけでもないのに、先生が私の気持ちに気付いてくれたことが本当にうれしかった記憶があります。

「だちかんぞ」とカレーライスの思い出

この担任の先生は、「だちかんぞ」という言葉をよく口にしておられました。私もよく学校で悪いことをしましたが、先生は必ず顔を真っ赤にして真剣になって叱ってくださいました。そしてその後「だちかんぞ」と言われました。ちょっとしたことで、注意されるときは、「だちかんぞ」と添えられました。この言葉は、だめなことに対してはつきりだめと教えていただいた、あたたかな言葉だったとよく思い出されます。私はこの担任の先生が好きでした。

叱られただけではなく、ほめていただいたこともありました。

先生のご専門は図画工作でした。六年生の頃に、物語のイメージを描く授業がありました。冬の寒い日のある主人公の様子を描く授業でした。このとき、ずいぶんと時間をかけて描いた絵を、先生は、私のすぐ近くに來てはめてくださいました。色の重なり具合や筆の使い方など、ご専門教科の先生だったので、事細かに教わりました。私が、小学校、中学校とずっと図画工作や美術が好きになったのも、この先生のおかげです。

あるとき、クラスの友達と先生のご自宅におじゃますることを計画しました。一応先生にお許しをいただいたので、小学生ながら、列車に乗って遊びに行きました。いったいどんなところに住んでみえるのだろうと好奇心いっぱいでした。山や川に近い田舎のお宅でした。お昼ご飯に、奥様がカレーライスを用意してくださいました。このときのカレーライスがおいしくておかわりをしたことを今でもよく覚えています。

当時のクラスは、自分も含めてけっこうやんちゃな子供たちがいて、先生もクラスをまとめることが大変だったと思います。でも、私たちは何か、先生に愛情と信頼をもっていました。それは、先生がいつも「だちかんぞ」と声を発し、人としてだめな行為・行動はしっかり叱っていただいたこと、どの子の可能性も引き伸ばそうと認めほめておられたこと、そして、私にとっては絵を描くことのすばらしさや楽しさを親身になって教えていただいたことが背景にあります。担任の先生は、私にとっては、本当に人間味のあるかけがえのない先生です。

～食育への生かし方～

27 年度 学校給食調理発表会 作品集②

岐阜県農業協同組合中央会 会長賞
高山市学校給食一之宮センター

チーム名「チーム チェリーズ」



＜献立＞麦ごはん・牛乳
にじますのトマト薬味だれ
宮産ほうれん草のえごまあえ
夏のさっぱり汁・ぎふももゼリー

＜献立について＞

下呂市小坂町で養殖された虹ますを、頭や骨まで食べることができるように、米粉をつけてからりと揚げました。トマト薬味だれには、甘みと酸味の強い一之宮産のトマトに薬味を加え、夏でも食欲がわくように仕上げました。副菜には、えぐみがなく、やわらかい、一之宮産のほうれん草をたっぷり使いました。飛騨の、涼しく、昼夜の寒暖差が激しい気候を利用して作られる高冷地野菜は、地域をこえ、多くの人に飛騨のブランドとして親しまれています。その特徴的な美味しさを活かすことができるように工夫して作りました。

（献立作成者）栄養教諭 後藤 彩
（発表者）後藤 彩・幅上美津子・向 郁代

資料提供…（公財）岐阜県学校給食会

子育て半生記

海津市立日新中学校PTA会長 瀬古芳直

感謝

人は、自分が他人に親切にしたことはよく覚えて
いるのに、自分がしてもらったことは忘れやすいと
何かで聞いたことがあります。私もその一人で、特
に幼いころ、両親にしてもらったこと、地域の方
にお世話になったことがたくさんあるはずなのに、
うつすら憶えていることもあるのですが、正直思い
出すことが出来ない方が多い感じです。

今、私がやらせて頂いている中学校のPTA会長
という仕事も、自分が中学生の時、どんな方がされ
ていたのか全く憶えていなくて、今、考えると申し
訳なかったなあと感じたりしています。

この歳になって、三人の娘の父親となり、子ども
を育てていく過程の中で、時々、昔の自分を思い出
しながら、心の中でいろいろな方に感謝してみたり、
反省したりする機会が増えてきたように思います。

私は、三人兄弟の次男として、この海津市で生ま
れ育ちました。代々、長男が家を継いでいたので、
私も当たり前のように、大学を卒業して海津市から
出て生活するつもりでした。しかし、人生にはいろ
いろなことが起るもので、私の兄と弟は結婚した方
の家へ入ってしまったので、私が海津市に残ること
になりました。幸い海津市は田舎ですが、愛知県に
も三重県にも近い場所なので、車が無いと不便です
が、毎日、名古屋まで勤めに出れる状況なので良かつ

たです。

海津市は、周囲に一級河川の揖斐川、木曾川、長
良川があり、山も近く、ほとんど田んぼと畑という
自然に恵まれた場所です。特に長良川サービセン
ターは、カヌーやレガッタ・ボート・テニスコート・
サッカーグラウンド・サンドコートもあり、誰でも
予約して使える、とても素晴らしい場所でもありま
す。

私は小学生のころ、野球をしていましたが、中学
の時はテニス部へ入り、そこでテニスの楽しさを知
り、今でも興味を持っているスポーツです。そんな
こともあり、近くに素晴らしく整ったテニスコート
もあるので、是非、娘たちにはテニスをと勝手に思
い、テニスラケットまで買い、時々テニスへ出かけ
ました。

しかし、意外なことに、娘たちはテニスではなく、
野球の方が好きだったのです。女の子で野球は難し
い面もあると思いますが、幸い、中学校にはソフ
トボールの部活があったので、次女はそちらでお世
話になりました。特に現在、小学校六年生の娘のソ
フトボール熱はすさまじく、「上石津スターフレン
ズ」という、岐阜県でも一、二位を争うクラブチー
ムに入れたおかげで、北海道・富山・広島・三重・
静岡・長野へと何度も遠征へ行かせて頂きました。

ことなど、いろいろと向き合うこともでき、成長さ
せてもらっているなあ」と感じています。

PTA会長という仕事も、その中の一つですが、
昔、自分を助けてくれた人達に感謝する気持ちを
持って、海津市へ少しでも恩返しできるといいと
思っています。



ボランティアニュース

vol.7

親子で汗する夏の愛校作業！

多治見市立多治見中学校PTA

本年度、多治見中学校PTAは『子供の成長・親の学び』をテーマに様々な活動をしています。学校では「輝き隊」というボランティア組織があり、全校生徒の四七二名は「さわやか多中」を合言葉に地域での活動



も盛んにおこなっています。その活動を支える地域・保護者もボランティアに理解がある方が大変多いです。

このような気風の中、例年夏休みにはPTA学年委員が中心となり、三年生愛校作業を企画しています。特色のある学校で、中庭をはじめとして廊下はすべてウッドデッキです。今回は、生徒・保護者・職員・役員が、そのウッドデッキのペンキ塗りをはじめ、校庭の草取り、教室の窓ふき等をおこないました。

親子同士で頑張る姿を通して、これまでお世話になった感謝の気持ちと、あと残りわずかとなった学校生活への意気込みが、お互いに育まれています。学校がはじまり、後輩たちもこの活動に感謝して、学校をより大切にする効果も生まれています。

地域に貢献・地域とつながる

土岐市立土岐津中学校PTA

を支えました。

PTAと生徒が一緒になって活動することで、地域に貢献し、地域とのつながりが一層深まるようにしたいと考えています。



土岐津中学校区には、「三世代ふれあい広場」「夏祭りござらっ祭り」「高山城戦国祭り」「町民運動会」「町民文化祭」などの地域行事があります。その行事へ、ボランティアの依頼が毎年あります。生徒は、その気持ちに応え、積極的に参加をしています。PTAの方もボランティアとして参加し、生徒の活動を支えながら、一緒に地域の活動を盛り上げる一役を担っています。

六月に行われた「三世代ふれあい広場」には、吹奏楽部が出演し、オープニングを飾りました。ボランティアで参加した生徒は、「陶芸コーナー」「万華鏡作り」「竹馬乗りコーナー」など任されたコーナーを実際に体験してみても、その楽しさを参加者に伝えながら活動を支えました。

土岐津中PTAもボランティアとして参加し、中学生と一緒に、各コーナーで活動

生徒・PTAが町の二員として 取組む夏祭り

瑞浪市立日吉小中学校PTA

本校は、小中の校舎が繋がる併設校です。児童・生徒は二〇名、家族的な雰囲気の中で小中が一緒に過ごしています。PTAは小中で二つ、運動会や芋煮会、音楽交流会等、合同の取り組みが多くあります。その一つ、夏休みに行われる町の「夏祭り」にPTAで「かき氷屋」を出店します。

その夏祭りには、中学生の半数近くが、ボランティアで、朝の準備から大人たちの助っ人として参加します。祭りが始まると、司会やそれぞれの出店に分かれ、大人達にとって代わる程に活躍します。私達PTAの「かき氷屋」にも頼もしい助っ人がやって来て、活気ある活動ができました。

PTAも中学生も同じ一人の町民として祭りを支えました。子どもたちの頼もしい一面や充実感に満ちた笑顔を見ることができた貴重な機会でした。祭りの参加者の笑顔や任せられ頼られる経験が、子どもたちの成長に繋がると確信しました。



生徒たちはこの他の地域行事にもボランティアとして参加しています。私達PTAも、「先輩町民として負けてはいられない！」そんな気持ちになります。

本に親しみ、読書が 好きになることを願って

恵那市立武並小学校PTA

武並小学校PTAは、毎年二学期の読書週間に家庭教育委員会主催で、朝の読み聞かせをしています。保護者からボランティアを募り、それぞれ教室に分かれて朝の活動の十五分間で二冊の本を子どもたちに読んで聞かせます。

そのひと月ほど前に読み聞かせ講習会を開き、図書館司書の先生に読み聞かせの仕方、本の選び方の講習を受け、家で読む練習をしています。講習を受ける時には、どんな本がいいのか迷ったり、子どもたちが静かに聞いているだろうかと不安になったりもしますが、当日の子どもたちの真剣なまなざしと「ありがとございまして」の感謝の言葉と笑顔に、「やってよかった」という思いになります。

また、この活動を五・六年生が引継ぎ、朝のなかよし活動（縦割り活動）



で、自分のグループの下の子たちに紙芝居や絵本を読んで聞かせる活動にもつながっています。



夢をかなえるゾウ
水野敬也 著
飛鳥新社

本巣郡北方町立北方小学校PTA
母親委員長 勝早苗



私がこの本に出会ったのは、今年一年生になった娘がまだ六ヶ月ぐらいだった頃でした。その頃の

娘は、私にしがみついていたと眠れない子なので娘のおやすみタイムは読書の時間でした。
この本は「自分を変えたい」という強い願いを持ちつつも変えられずにいる普通の会社員である主人公の元に、自らを「神様」と称する象の化け物（ガネーシャ）が現れるところから始まります。

しかし、この「神様」は、なぜか関西弁でタバコをスパスパ。あんみつが好物ときています。そして自分のことを「過去に地球上に現れた偉人たちの成功のお手伝いをしてきた」と豪語し、「あなたの夢を叶えさせてあげる。その代わり、今からワシの言うことをたった一度でも聞かんかったら、もう一生何かを夢見ることもなく今まで通りの人生をだらだら過ごして後悔したまま死んでいく」というもの。

ここからガネーシャは一日一題主人公に「課題」を出し、その「課題」を確実にクリアしていくことが主人公の命題になります。その後、過去の偉人達を例に挙げながらストーリーは面白おかしく進んでいきます。日々の課題をこなしていくうちに「自分は本当に変われるのでは」という期待が

膨らんでいきます。それを覚ったガネーシャは「期待しているかぎり現実を変える力はある」と最後の課題を出し、自分に依存することなく夢を叶えられるように主人公の元を去る決心をします。

最後の課題に入る前にガネーシャから読者へのメッセージが入ります。「世の中には成功法則所が溢れ、それを読んだ人に期待を与えつつづけているが、そうした人たちのほとんどが成功していきません。なぜでしょう。それは何も知らないから。実行に移さないから。経験に向かわないから。昨日までとは違う何かを今日行いのなら、仮にその方法が間違っていたとしても偉大な一歩。本当に必要なのは自身の行動力です。人生を本当に充実したものにするために、今から出す課題を必ず実行して欲しいと願っています」。

ガネーシャから出された「最後の課題」は全部で五つ。どれも本当に大切なことでクリアしなければならぬ課題だと思っています。最後の課題以前の二十五の課題もクリアすべきなのでしょうが、一見簡単そうに思ってもなかなか取り組めない。取り組まない言い訳ばかりのような気がします。

「こうすれば今の自分を変えられる」と頭で理解しただけではダメ。「実行しなければ何にもならない」私自身肝に命じなければならない言葉です。もちろん子ども達にも、大人になっても「こんなはずじゃなかった」と後悔しないように今すべきこと、できることを一つ一つ確実に実行できる人になって欲しいと願っています。

江原啓之の
スピリチュアル子育て
江原啓之 著
三笠書房

大垣市安八郡安八町組合立
東安中学校PTA
広報委員長 堀咲枝



仕事、家事、子育てと慌ただしく過ごす毎日に、心にゆとりがな

かった頃、書店で見かけた『子どもに選ばれて、親になりました』という表紙の言葉に心を惹かれ、この本を手に取りました。本を開いてみると見出しには『親と子の神秘的関係の意味がわかり、子育てがもっと楽しくなる本』と書かれています。

楽しくなる？当時、子どもに関わる仕事をしながら、どうしたらこの子の個性が伸びるんだろう？「なんでも言うことを聞いてくれな

いんだろう？」どうしたら？と自身の子育てと重ねながら悩むばかりで、子育てを楽しむ気持ちなど忘れかけていました。

「仕事忙しいから」と、我が子の言葉に耳を傾けることも少なく、寂しい思いをさせたり、大人の思いを押し付けるばかりで、子どもと向き合い、良さを認めていない自分に気付かされました。

そして、「母親失格」と落ち込む気持ちを楽にしてくれたのもこの本でした。

子どもの個性に大人の理想を押し付けてはいけないことや、個性を伸ばすには好きなもの、性格を見極め、認めていく事が大切な事を、オーケストラやケーキに例えて分かりやすく書かれていました。何より忙しさを忘れていた「ありがとう」「助かったよ」の何気ない一言がよいエネルギーになることを知り、

「今の自分でも出来そう」と、自信を取り戻す良い機会でした。悪い所ばかりが目についていた我が子にも良い所が少しずつ見つけられるようになりました。

次に目にとまったのは『お母さんは家族の太陽です』という言葉

でした。母親ばかりが子育てをしている訳ではないのですが、子どもは親の姿をとてもよく見ています。お母さんが笑顔でいれば子どもも笑顔になる！逆にお母さんがネガティブな事を言う子どももそう思ってしまう。今、子育てと仕事の両立に悩んでいる方も多いと思います。自分の時間がなかなか取れずに、イライラしてしまふ事も多いと思います。そして子どもに当たってしまう…。悲し

い事件も多いですよ。お母さんが笑顔でいることが大切な子育ての一つと知ったことで、ボーっとしたり、ウインドウショッピングをしたりして、リフレッシュすることも気兼ねなくできるようになりました。

最後に、親子のきずなを深めるいちばんいい方法はスキンシップで、愛情が最も伝わりやすいそうです。さすがに中学生になった娘に抱っこやおんぶは嫌がられますが（私はいいのですが《笑》）ぜひ心がけていきたいです。

改めて今、忙しい中にも、心にゆとりを持って、子どもに寄り添いながら楽しい子育てをしていこうと思えました。



P.N. おかか（関市）



P.N. うさぎの玉子（美濃加茂市）

QUESTION -1

パンダの好きな食べ物は
何だ？



出題・森 皇輝（各務原市）
〈答えは41ページ〉

いつもの道場。ただ繰り返す。

今日も、明日も。

一本でも多く、投げたか？

昨日の自分より、強くなったか？

ゴールは向こうからは、やってこない。

だから近づく。一步一步。

挑戦は、美しい。



立ちどまらない保険。

MS&AD 三井住友海上

生きていくすべてを学んでほしい

岐阜市立白山小学校PTA 森井 直美

森井家
の巻

60



何を決めてもルールとして続かない森井家。それはやはり我が家の場合私（母）のねばり、根気が足りなかったと反省。
夫婦と中三の娘、中一の息子、小三の娘の五人家族。今までも一日一回お手伝い、ご飯の時はTVを見ない：など何度も言ってきましたが反抗期を迎えた子ども達にはなおさら無理。小さい頃に徹底してやり通すべきだったと思う。

そんな我が家にかろうじてある二つの約束。

約束①誰かを送り出す時は必ず玄関まで行って元気に声をかける

「いつてらっしゃい。気をつけて。」もっばら、私の役目になつてはいるものの友達が出来た時は、子ども達。「ありがとう。またね。」それだけだけど、なんだかその後みんな笑顔になっている気がする。

約束②必ず朝ごはんを食べる

寝過ぎすこともあり、なかなか十分な内容ではない時もあるけど、とりあえず食べる。朝食を食べることによって一日が始まったというメリハリをつける。

大きくなればなったで、また今までは違う悩みも増えますが親から離れた時に自分で生きていける底力が備わっているようにと願っています。



話そう!語ろう! わが家の約束

わが家は夫婦と長女（中三）と次女（小五）の四人家族です。普段から家事・手伝いがあまり出来ていません。今年度、北和中でスーパードキュメント（SSS）事業を実施しています。わが家も夏休みを利用して三つの約束（SSS）を決めました。



約束①（S）洗濯のお手伝いをする。朝、ラジオ体操から帰ってきたら洗濯ものを干す。夕方に取り込んだたんで片づける（急な雨に気を付ける事）

約束②（S）食器洗いをする。自分で使った食器は自分で洗う。みんなの食器も洗える時は洗う（食事を作ってくれる人に感謝の気持ちを持つ事）

約束③（S）散歩を毎日する。愛犬の散歩を毎日、朝と夕方に二人で行く（雨が降っていても必ず行く事）

自分たちで考え、時間を作って家事・手伝いをする事で、その大変さ、大切さ、ありがたさを感じてほしい。夏休み以降もこの活動（SSS）を継続していけるように家族全員で一日一日感謝の気持ちを忘れずに取り組んでいきたいと思っています。

山本家
の巻

61



揖斐川町立北和中学校PTA会長 山本 正勝

感謝の気持ちでお手伝いをする

★子の思い

プールでがんばってほしい

恵那市立大井第二小学校

三年 森澤 愛利

わたしは今、二五メートル以上泳げる黄緑ワッペンを水泳ぼうしにつけています。

三年生の始めは、ピンクワッペン（伏し浮きができる段階）だったけど、どんどんレベルアップしました。きっと、全力を出していたからかなと思いましたが。だれかわからないけど、「がんばって。」と声をかけてくれました。となりの席の友だちでした。がんばって言うってくれて心が温かい気持ちになりました。わたしも、がんばって泳いでれんしゅうしました。黄色（五メートル以上泳げる段階）をとばして、一三メートル以上泳げる水色ワッペンになり、次のプールの検定で黄緑ワッペンをもりました。

はげましの言葉はだれでもみんな

なのささえになると気がつきました。これからはがんばってワッペンを取りたいです。わたしもみんなのささえになるように、はげましの声をかけたいです。

運動会で手に入れたもの

高山市立江名子小学校

六年 森野 結子

解団式で泣いた運動会の日。私は、団長になってからの苦勞と感動を一気に振り返りました。

あこがれの団長になることができたけれど、私は始め、どうみんなに自分の思いを伝えればいいのかわからず、声もつまく出せなくて、不安でいっぱいでした。団の仲間が私よりもリーダーとしての力をぐんぐん出してきたときには、「本当に私が団長でよかったのだろうか」と思ったりもしました。とにかく何もかも失敗したくないと思っていたあまりに、相手団長の様子を見て動いたりして、自分が出せていませんでした。

そんなとき、そばにいてくれたのは、友達、そして応援団、団員のみんなでした。

「大丈夫。結子ちゃんならできるって。」

と声をかけてくれ、勇気をもらいました。それからは、失敗を恐れずに自分を出すことに挑戦し、みんなとも協力し合うことができました。

私たち赤団のスローガンは、「パワー全開」。自慢は、仲間と協力できることです。勝負の結果は、競技では負けましたが、応援合戦では、勝つことができました。解団式でこみ上げてきたあの涙は、「くやしい」よりも、「ありがとう」でした。

運動会までの生活で手に入れたものは、自信、勇気、仲間、そして、あきらめないことです。仲間がいることで、私は共に成長し、関係を築くことが出来るんだと、私は思いました。

★親の願い

ぎゅっと抱きしめて

可児市立南帷子小学校PTA

岡本 未知

叱って伸びる子、誉めて伸びる子という言い方があります。でも叱られて嬉しいと感じる子がいるのでしょうか？誰でも叱られるより誉められる方が嬉しいに決まっています。悪いことをしたら叱る、良いことをしたら誉めるというのが当たり前です。

しかし、私が気をつけなければならないこと、見落としているかもしれないことは「叱る時に叱っていない

得たものの喜び

多治見市立北陵中学校

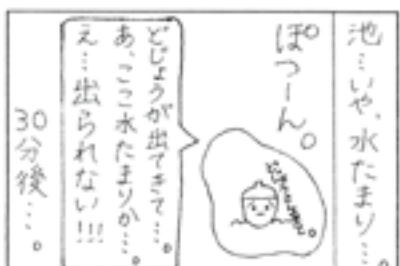
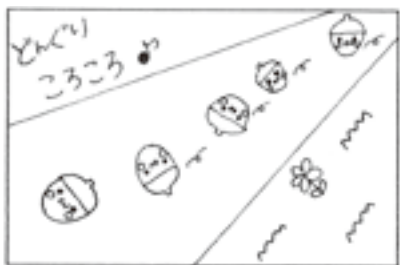
三年 河野 友基

今年の夏、僕は軽い気持ちで英語スピーチコンテストに出てしまった。英語の授業で先生が「スピーコンに出てみない？」と声をかけていた。スピーコンのことは学校の広報で毎年行われている英語のスピーチコンテストだと知っていた。ただそれだけの認識しかなかった。中学生生活最後だし、何となくやってみようかな？とノリで返事をしてしまった。

夏休みが始まり、作文を書き、英訳をして、発表するためスピーチの練習が開始された。少しなめていた僕であった。暑い中、学校へ行き、発音の指導を受けたのだが、英語が得意ではない僕は、悪戦苦闘。今井先生、南先生、アレクシ先生には大変迷惑をかけてしまった。Rの発音が苦手で何度も繰り返す。へこんでいる僕に対して最後まで指導してくれた。練

大垣桜高校
まんが研究部

どんぐりの日常



逆さ言葉

かんけいないけんか
(関係ない喧嘩)

出題・伊藤慎介 (山県市)

それらを同時にやることは大人でも難しいことです。こういう私も欠点だらけの人間で、とても子どもに教えることなどできそうにありません。でも、できるだけ誉めてあげようと思います。泣いている顔を見るより笑う顔を見るのが好きだから、怒った顔を見られるより笑う顔を見られる方が嬉しいから、誉めようと思います。ぎゅっと抱きしめて誉めようと思います。

人の感じ方や生き方には、人それぞれ価値観があり、それが正しくどれが間違っていると言い切ることはできません。短所を直す、長所を伸ばすのは親や先生がやるものではなく、子ども自身がやるものだと思います。私自身の感じ方や価値観で判断してくれば良いと思います。ただその判断が片寄らないように、曇らないように手助けはしたいと思います。それは子どもとちゃんと向き合うこと、誉めることから始まると思います。子ども自身が愛されている存在、必要とされる存在と認知してほしいから。

親として

関市立緑ヶ丘中学校PTA
会長 山田 尚

我が家は一人息子です。親として子どもとどう向き合っているのか、いつも考えている。どうすれば良い子になるのだろうか？

そもそも、良い子って何？ 勉強が出来る子？ 親の言う事を聞いてくれる子？ スポーツで優勝した子？ 子どもに何を期待する？

今年受験生の息子にはつい、毎日のように勉強しなさいと言ってしまう。でもなかなかやらない。親として勉強しなさい！ と言うのは、子どもの為を思っていること。

でも、自分は親父に何を言われていただろう。ふと振り返るが何も言われてなかったように思う。ほとんど親父は仕事の付き合いで、夜居なかったから、親父と会話した記憶はあまりない。だから母親を通じての会話が多かったように思うが、今の時代はそれで

は通用しなくなってきた気がする。

たとえば、塾に行つて勉強し内申点を上げて、高校に入り、大学に行き、会社に就職して…ひとつの生き方ではあると思うが、本当に子ども自身が望む進路なのか？ 子どもに将来の事を聞いてみた。

自分：お前、将来何になりたいの？
子ども：別に分からない、何か…ああ物作りかな？

自分：どんな物作り？
子ども：お父さんと同じような飛行機みたいな？

自分：そつなんだ、じゃ高校は？ 大学も行くの？

子ども：うん、行こうと思ってる。自分：それなら、勉強をもっと頑張らないと駄目だね。

先日こんな会話を子どもとやりとりしていた。自分と同じような物作りと言ってくれたのは、正直嬉しく思った。学校の職場体験で物作りの現場を経験した事が、何らかのきっかけになってく

教育の窓

まもなく、卒業します

養老町立上多度小学校

教務主任 佐藤 礼子

子ども大好き、学校大好き、教

れたのかもしれないが、良かったと思う。

あとは対話がいつでも出来る環境作りを大切にするように心がけている。子どもが話しやすい環境を作っておくために野球をやったり一緒にゲームしたり、たわいも無い会話が出来るのが良いのではないかと思う。

自分も含めみんな親になるのは初めて。それが正しいのかどうかも分からないけれど、子どもと一緒に親も悩み、そして楽しみながら、まだこれからの子どもを見守って行きたいと思う。親として…やっぱり子どもの幸せが一番の願である。その為に頑張っている！

大垣桜高校 まんが研究部

壁ドン



逆さ言葉

わたしやもりもやしたわ
(私やモリ燃やしたわ)

出題・安田恵輔 (多治見市)

師というこの仕事が好き！…大好きな子ども達と共に、仕事をさせていただいた教師人生に、ただただ、感謝をしています。

思えば四十年前、今は亡き校長先生が『教師は絶えず自分を磨き、勉強することが大切だ。』と何度も教えてくださいました。熱心な読書家で、校長室に行くといつも本を広げ、何やら分厚いノートにメモをされる先生の姿がありました。何と気高い姿だろう。新卒の私は、S校長先生のように子どもの前に胸をはって立てる教師になるぞと決意しました。

私の手始めは、通信教育で上級免許を取得することでした。高等

学校一種や小学校専修免許、特別支援学校免許など勉強し取得しました。

しかし、順風満帆だったわけではありません。就職と同時に結婚した私は、舅姑の厳しい躰がありました。『自分の子どもが育てられなくて、何が人様の子が育てられる。』確かにその通りです。おむつは帰ってから洗い、離乳食は朝早く起きて作りました。家族の夕食の準備は、わが子を必ず背負ってしました。自分だけ何故こんな辛い思いをせねばならないのかと、家庭と仕事の両立の難しさをつくづく思い知りました。しかし、それを救ってくれたのはある

お母さんです。「先生は、若いけど苦労して頑張っている。だから、親の気持ちも子の気持ちも分かってくれる。自分と同じだから、何でも相談できる。」と。まさに目から鱗で、自分の考え方をマイナス思考からプラス思考にかえる転機となりました。

担任をしていると子どもの後ろに家庭があり、家族があることを嫌と言うほど思い知らされます。教師は、子ども達の親でもあると思いました。わが子の保育参観に出かけたとき、舞台の袖から端役で出てきた息子にスポットライトが当たって見えました。思わず、「ママはここだよ。」と夢中で手

を振る私がいきました。『三十人学級の教師にとり、児童一人一人への思いは三十分の一。でも、親にとって自分の子どもは一分の一』と、N校長先生がいつも話されます。その言葉の重みを教師が忘れないければ、親とのトラブルは絶対起きません。子ども一人一人を大切にすることはどういふことか、自分が親になって知ることができました。

さて、子によって親は育てられるとも言います。小三の息子につきっきりで宿題の世話を焼く私に、「お母さんは、ほくのお母さんだ。先生じゃない。」ときつい一言。私は何を勘違いしていたの

だろう。教師だからと、自分の子どもにまで勉強を強要してしました。母親として、まずは美味しいご飯を準備すること、家族みんなが気持ちよく暮らせる居心地のよい家庭を創ること、家族を大切にすることが基盤にあつてこそ、人の道と気付きました。人には、与えられた使命があります。かけがえない子ども一人一人に学校で居場所を創ることが、今教師としての私の大事な使命です。

あと数か月で卒業です。微力ですが、最後の最後まで教師の道に尽くしたいと思います。

ネット社会の「三〇%」と「八八%」が意味するもの

本巣市立根尾中学校

教頭 若曾根隆彦

「三〇%」。これは、岐阜県の小学六年生がケータイやスマホを所持している人の割合を示しています。一〇人中七人は、ケータイを所持せずネット社会とは無縁のよ

うにみえます。しかし、もう一つの数「八八%」が曲者です。これは通信型ゲーム機の所持率を表しています。ゲーム機を通じて、ネット検索をしたり、チャットしたり、動画をみたりできる子どもたちが、一〇人中九人近くもいるのです。(百分率は、ともに二〇一四年度岐阜県情報モラル調査結果からの数値。)

このように、ネット世界の入り口が子どもたちの身近なところにあることで、子どもたちは、インターネットの使い過ぎや必要以上の個人情報掲載によるトラブル、SNSに関わる友人間のトラブルなどに巻き込まれやすくなっています。特に、SNSを使った画像や動画の掲載によるいじめが、全国的に起きています。

△事例1▽ 男子中学生が同級生の男女五人からいじめに遭い、土下座させられる様子などを撮影した動画が、SNSに投稿された。(二〇一五年七月)

△事例2▽ 中学校で、部活動の

練習後に上級生から「スポンを脱いでこっちにこい」と命令され、下半身が露出した状態で歩いている様子を動画で撮影され投稿された。(二〇一四年七月)

今、家庭や学校が連携して情報モラル教育を推進していくことが急務です。指導にあたっては、情報モラル教育を特別な教育ではなく、いつも私たちが大事にしている相手を尊ぶ心を育てる教育だととらえて行います。ネットの向こうにも、いつも相手がいることを意識して、思いやりの心を大事にします。そして、親子で話し合いをし、使い方の約束を決めたり、決めたことを守りきったりすることを大事にします。

初めてケータイを持つことになったときの話し合いが大事です。約束づくりのキーワードは、ケータイの「使える場所」「使える時間」「心情」「フィルタリング」です。

▽使える場所…家族みんながいる

ところで使つ。
夜はケータイを自分の部屋に持って行かない。

▽使える時間…夜△時以降は、ケータイ・スマホは使わない。

▽心情…SNSによるいじめなどの事件があつたとき、被害者本人やその家族の心情を考える。ネット社会では誰もが被害者になり加害者にもなる可能性がある。加害者家族の心情にも目を向ける。

▽フィルタリング…無線LAN使用時のフィルタリング対策を行う。

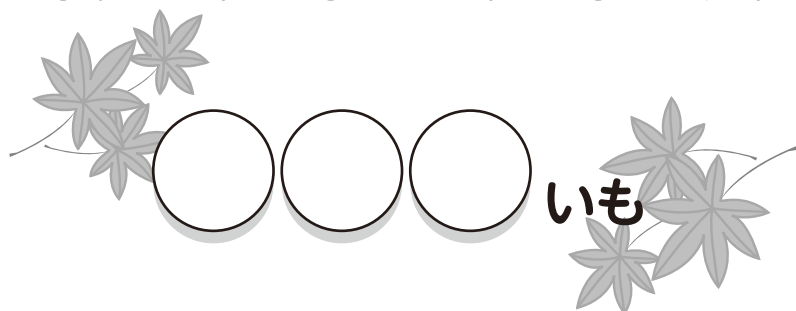
本巣市連合PTA、本巣市青少年育成推進員会では、「ケータイ・スマホ 3 ない運動」に取り組んでいます。約束を決めるにあたつては、これらを踏まえたものになるようにもしています。

生徒がネット被害にあつたときは、一人で抱え込まないで、すぐに保護者や学校・関係機関に相談できるように、子どもとの信頼関係づくりに努めていきたいです。

Q1

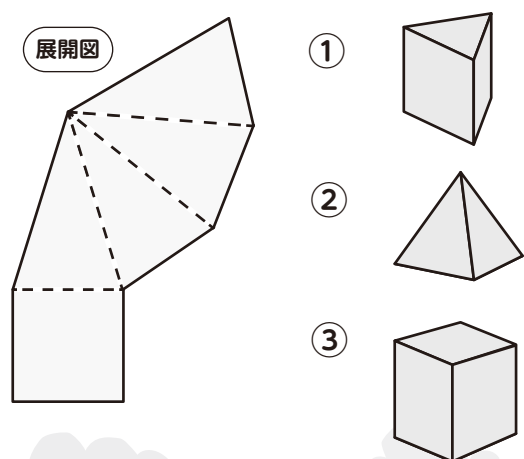
①～③の県庁所在地を教えてください。
県庁所在地の頭文字を○の中に当てるとある秋の味覚になります。

①佐賀県 ②三重県 ③愛媛県



Q2

展開図を組み立てるとどんなカタチになるでしょう。
下の図から選んでください。



展開図

①

②

③

親子ではてな

11月号のクイズ

9月号クイズ答え

Q1 ①月 ②日

Q2 ①ブラジル

9月号のクイズ当選者

上田 凜(岐阜市) 伊藤 慎介(山県市)
北川 慎也(岐阜市) 柳瀬 綺音(不破郡)
森 皇輝(各務原市) 足立 明優(関市)
丹羽希里歩(各務原市) 鈴木 麻友(郡上市)
佐藤 瞭(瑞穂市) 三宅 晴(美濃加茂市)
廣瀬 沙樹(瑞穂市) 長瀬 良磨(美濃加茂市)
中森由美子(瑞穂市) 安田 恵輔(多治見市)
武田隆之介(本巣市)

応募方法

応募者は、はがきで、11月末までに下記の宛先へお送りください。

(1人1枚・当日消印有効)

※クイズの答えは1問だけでもOKです。

宛先 〒500-8824

岐阜市北八ツ寺町7

岐阜県校長会館内

岐阜県PTA事務局

「わが子のあゆみ編集部」

なお、応募はがきには『わが子のあゆみ』への感想・意見やなぞなぞの問題と答え、逆さ言葉などを記入してください。

●11月号クイズの答え

●郵便番号・住所
学校・学年・氏名
保護者名

●『わが子のあゆみ』
への感想・意見

●「なぞなぞ」の
問題と答え

●逆さ言葉



材料
5人分

- ・さつまいも …… 500g
- ・りんごジャム …… 大さじ2
- ・バター …… 10g
- ・春巻きの皮 …… 10枚
- ・さとう …… 大さじ3
- ・小麦粉 …… 適宜
- ・生クリーム …… 大さじ2
- ・塩 …… 少々

※小麦粉を少量の水で溶き「のり」を作る。

●栄養価(1人分)

エネルギー	137kcal
たんぱく質	1.7g
脂質	2.5g
カルシウム	24mg
鉄	0.5mg
亜鉛	0.2mg
ビタミンA	18μgRE
ビタミンB ₁	0.07mg
ビタミンB ₂	0.02mg
ビタミンC	15mg
食物繊維	1.4g
塩分相当量	0.1g

★お試しクッキング★

さつまいも
巻き巻き



食欲の秋！ さつまいも、栗、りんごなど、おいしい食べ物が出回る季節です。

そこで、今回はさつまいもで作るおやつを紹介합니다。スイートポテトの生地にはりんごジャムを加え、春巻きの皮で包んで揚げます。さつまいもの甘味に、りんごの甘酸っぱさがよくマッチした一品です。是非、お試し下さい。りんごジャムの代わりに煮りんごを使ってもよいでしょう。1cm角くらいに切ったりんごに軽く砂糖をふって、電子レンジに1分弱かければOKです。レーズンや栗、チーズを入れたり、シナモンを少し加えたりしてもおいしいと思います。もちろん、スイートポテトの生地だけでもOKです。包む手間、揚げる手間がたいへんという方は、この生地をまとめて形を整え焼いてみてください。おいしいスイートポテトになります。

さつまいもは、炭水化物、食物繊維やビタミンCが豊富！ 鉄分やカルシウムも含まれているので、不足しがちな栄養を補うおやつとして最適な食品です。他にも、大学芋、かりんとう、蒸しパンなどいろいろですね。お休みの日にお子さんと一緒に作ってみるのもいいですね。

作り方

- 1 さつまいもは洗って皮をむき、1本を4〜5切れくらいに輪切りし、水を入れたボールに入れアクをとる。
- 2 さつまいもの水分をキッチンペーパーで軽くふき取り、20分〜25分くらい蒸す。(電子レンジを使用すると簡単です。) やわらかくなった後、熱いうちにつぶす。
- 3 2にバター、さとう、生クリーム、塩、りんごジャムを加え、まぜ、10等分にする。(塩は少々入れすぎに注意する。)
- 4 春巻きの皮に3をのせてまき、小麦粉で作った「のり」をつけて止める。(揚げたとき、中身が出ないよう、ふちをしっかりと包みましょ。)
- 5 170〜180℃くらいの油でカリッと揚げる。

information

■作品を募集しています。イラスト・なぞなぞ・逆さ言葉などの作品を募集しています。イラスト・絵手紙はハガキに描いてお送りください。ペンネームを使う場合にも、郵便番号、住所・学年と氏名を忘れずに。写真・書写は郵送願います。なぞなぞ・逆さ言葉は「親子ではてな？」の回答とともに送り下さい。

宛先はいずれも

〒500-8824 岐阜市北八ツ寺町7
岐阜県校長会館内「岐阜県PTA連合会・作品係」まで。

採用の分にはお礼をさしあげます。

■本誌の購読について

本誌は年間5回発行(7・9・11・1・3月)されます。年度始め(4〜5月)と7月の2回、各学校PTAを通じて購読募集を行います(1冊200円、5冊1,000円)が、年度途中でもお求めいただけます。学校または県PTA事務局へお問合せください。

■9月号を読んで

今回は35頁の「子の思い」の「ぼくのゆめ」が特に良いと思いました。今年度、広報で先生から「先生を志した動機」のアンケートを取りましたが、まさに、子どもの時に受けた気持ちと一緒に。子どもに尊敬される先生は、保護者にとっても気持ちがよいですね! Kさん

「ほめ達」私もぜひ実践してみます。そして、自分自身も心を整えて成長していきたいです。禁句の3D、使わないように気をつけます。 Mさん

「ほめて育てる子どもの力」が最も印象に残りました。16頁の「私達が見ているものは現実のうちのほんの一部であってすべてではない」。これを読んだ時、ハッとしました。2人の子ども、そして夫に対して、自分が正しいと思い込んで数々の言葉を発してきたことを反省しました。物事を決めつけるのではなく、別の視点から見る練習を今日から行います。 Aさん

私が子どもの頃は、親や先生にほめられるということはあまりなかったような気がしています。大人も子どもも、ほめられると嬉しいもの。良い点をのばし、また発する言葉の力で子どもの良いところに気づき(親子互いに)、伸ばせるといいなあと思っています。「お弁当の日」で気づくことは、最近、お弁当づくりは大変!面倒!と思うお母さんが多いことです。お弁当は愛情です。冷凍/パスタをお昼に食べている人がいます。栄養や家族の健康を考えるお母さんが増えてほしいと願います。 Nさん

毎回、講演の特集を楽しみにしています。「ほめて育てる子どもの力」の内容は、ぜひ実践してみます。長女は自己肯定感が低く、いつも「どうせ私は〜」と口ぐせになっています。最後までやり切ることが苦手なので、そこを直せば自己肯定感が高まると考えていました。でも特集のおかげで、大人が子どもの良い部分をしっかりとほめて伝えること、気づかせてやることを知りました。今日から早速、取組みます! Sさん

「話そう!語ろう!わが家の約束」お父さんのプチ命令をおもしろく読みました。「わが子のあゆみ」は、私が小学生の時もありました。当時は父が4年間、PTA会長をしていて恥ずかしながらも、父を尊敬していました。今は自分もPTA本部役員として携わっています。子どもたちの健康と安全、未来のために頑張ります。 Tさん

加納中学校に「お弁当の日」があることを初めて知りました。写真を見ると、どれもかわいいものばかりで、作るのも楽しそうだし、皆と見せ合うのも楽しそうだと思います。私は自分でお弁当を作ったことが無いので、作ってみたいと思いました。私の学校でもお弁当の日を設けてほしいと思いました。 Uさん(中3)

39頁「心のふるさとに」に閉校となる話が印象に残りました。少子化が岐阜県の西濃にもおきうる問題なのだと考えられました。是非、地域・保護者で心に残るお祝いをしてほしいと思いました。 Yさん

■編集後記

選挙権年齢が「20歳以上」から「18歳以上」に引き下げられました。来年夏の参議院選挙から高校3年生の一部を含む18歳と19歳の若者が新たな有権者となって選挙権を行使できるようになったのです。国や地方を問わず、若者の選挙離れが憂慮されてきました。若者が国づくり街づくりの選挙に参加しないからです。そこには若者が「一票くらい投票してもしなくても、何も変わらない」という諦観意識に支配されているように思えます。識者は選挙の意義や仕組みを学校で教え、啓発の必要性を説きますが、親が子に教える民主主義は無いのでしょうか。親がいて子どもがいて家族の生活ができます。そこにある家庭は皆で作り、皆で支え合っていくものです。そういうことを親は子に話さないのでしょうか。親子に語り合いがあることで共通の理解が生まれ、悩みや不安は安心と自信に変わっていきます。思春期の子どもの不安も尽きないし子を持つ親の心配の種も尽きませんが、はつらつとした自意識を持つ若者を育てるのは、家庭の親であり地域の大人たちだと思います。

■なぞなぞの答え

①パンだ!

■1月号のお知らせ(予告)

特集=中3、親の気持ち(笠松中・陽南中・西部中・瑞陵中・中山中)／表紙=稲羽東小／学校のたからもの=緑苑小・松枝小・明世小・西可児中／わが家の宝物=竹鼻小／家庭教育応援団/療育=飛騨吉城特別支援学校／お弁当の日=大垣東中／保健室ノート=上之郷中／私の先生=岐阜小／半生記=日野小／ボランティアニュース=広幡小・笠郷小・日吉小・東部中／1冊の本=羽島東小・国府中／子の思い=川辺西小・三城小・江名子小・不破中／親の願い=高須小・美濃加茂西中／教育の窓=長島小・羽島中央中／お試しクッキング／ふるさとの伝承=濃南中／きりり!キッズ! =高山東小／我がが部活=泉中／私たちのPTA=牛道小

わが子のあゆみ

平成27年11月1日 発行
初秋号 第67巻3号
通巻第440号

頒価 200円(年間1,000円)

*お問合せ申込みは、各学校または右記事務局へ。

編集/岐阜県PTA連合会広報委員会「わが子のあゆみ」編集部
発行/岐阜県PTA連合会

〒500-8824 岐阜市北八ツ寺町7 岐阜県校長会館内
電話/058-262-3257 FAX/058-262-3259

ホームページ/http://www.g-pta.com
Eメール/info@g-pta.com

印刷/サンメッセ株式会社

「命を救えない者に、国は救えない。」
「よし、私は自分の良心に従う。発給しよう。彼らにビザを！」

八百津小学校の人権創作劇「メノラの灯」での、台詞のひとつです。

「メノラの灯」とは、第二次世界大戦下において、ビザ発給により約六千人もの尊い命を救ったといわれる、八百津町出身の外交官「杉原千畝」氏を取り上げた本校独自の創作劇です。内容的には、杉原氏がビザの発給を決断する場面を中心に、自作の三曲の挿入歌を組み込んだ劇になっています。

本校は、加茂郡八百津町の中心部に位置し、木曽川右岸の町の中心地区にある学校です。また、本町は杉原千畝氏生誕の地としても知られており、教育夢プラン「人道プラン」の中に、「世界に発信する人権教育のまち」を掲げ、人権教育にも力を入れています。

本校では、高学年の総合的な学習の時間を中心に杉原氏の学習を行い、記念館を訪問したり、資料で調べたりしながら、氏の業績とともに思いや願いを主体的に学びます。その学習のまとめとして、「メノラの灯」を上演しています。平成十七年度に初上演し、その後毎年上演しており、今年で十年目を迎えました。平成二十一年度には、長良川国際会議場で行われた「人権フェスティバル全国大会」でも上演しており、本校の「新しい伝統」としての位置づけが確立してきました。

一学期の調べ学習を経て、劇の取り組みは十二月上旬（ひびきあいの日）の上演を目指し、二学期から本格的に始まります。劇づくりの中で、「ビザを求めるユダヤの人の気持ちは？」など登場人物の気持ちを考えさせ、台詞の言い回しや演技をみながら考えることを大切にしています。劇中歌は、五・六年での合唱ですが、低学年より耳にできた合唱なので、すぐ歌えるようになってきます。また、プロの劇団員や合唱指導に長けた先生など外部講師による指導を数回行っています。

上演の日である『ひびきあいの日』は、杉原氏の業績や志を学び、発表するだけの行事ではなく、「思いやりの心」「命の大切さ」を全校で考える日としています。この期間は特に、児童会で「思いやり」をテーマに活動したり、各自の「思いやり」を宣言し活動したりします。当日は、第一部が「メノラの灯」、第二部は「思いやりプロジェクト発表会」となります。この日は、保護者・地域の方々にも公開しており、毎年多くの方に参観頂いています。

この「メノラの灯」の取り組みが、将来の社会をよりよく生きているための「人との絆やつながり」を大切にする力になると考えています。また、ふるさとに愛着や誇りをもつ子どもたちになっていくものと願っています。



▶劇の様子
・メノラを掲げるユダヤ人家族
(メノラとは燭台のことでイスラエルの国旗にも使われているユダヤのシンボル)



▲杉原千畝氏



▲杉原千畝記念館での学習の様子



▲杉原千畝氏が発給したビザ



▲劇団員による演技指導の様子



▲劇の様子
・ビザを発給する杉原千畝



◀劇の様子
・エンディング

「メノラの灯」

きらり！キッズ！

ひとりだちくふるさと神淵を愛し 共に高まる学校に

七宗町立神淵小学校は、全校児童七三名の学校です。学校の教育目標「豊かな心をもち 自ら考え 進んでやりぬく子」のもと、「ひとりだち」を合言葉に、その達成に向けて、地域との連携を大切にしながら取り組んでいます。本校は、歴史と伝統のある七宗町にあり、長年にわたり整備されてきた大切な森林と、ホタルや鮎など様々な生物が生息する清らかな神淵川など、豊かな自然と、温かく大変協力的な地域の皆様に支えられた明るく楽しい学校です。四つの輝きとして、「授業・挨拶・歌声・掃除」に力を入れています。今回は、特に「進んで取り組む授業」と「地域とのつながり」について、紹介します。

学びのひとりだち 生き生きと、進んで取り組む授業を創り上げる

神淵小学校では、「自分の考えをもち 主体的に表現する子」を目指しています。理科の授業の様子を紹介します。本校では少人数である利点を活かして、実験（観察）は一人一実験としています。全員共通の課題に対して、個人で◎予想をたてる ◎実験で確かめる ◎結果から考察する これが授業時間の主な流れです。自分の実験道具を使い、記録し、まとめるので、人任せでは何も結果は得られません。だからこそ自力で疑問を解決しようと努力することで、一人一人にやり抜く力が備わるのです。更に、見つけた事実から考察する場面では、仲間との積極的な交流を行うなど、学び合いも大切にしています。神淵小には、キラキラした瞳の小さな博士がいっぱいいます。



6年生理科「だ液のはたらき」
「どうかな、比較してみよう。」



5年生理科「メダカの食べ物」
「うわあ、すごい。いっぱいいる！」

関わりのひとりだち 「福祉」

子どもたちは年間三回、地域にあるデイサービスセンター「サンホーム七宗」を訪問します。笑顔になつてもうためにどんな態度で接すればよいのか、訪問前に子どもたちは真剣に考えます。そしてホームを利用されている高齢者の方の気持ちや状態を考えて、無理のない遊びや会話をしながら交流をしています。相手の方と目を合わせる高さに腰を低くしたり、手を差し伸べてあげたりするなど、利用者の方と関わることで、誰からも教えてもらうことなく自然に相手を大切に思う心や優しさが育まれます。子どもたちが自分の力で、獲得していく技術・能力・心はまさにその子の一生の宝物です。まわりのおとなは、手を出さず、目配りや気配りをして、子どもたちの「ひとりだち」を支えたいと考えています。



中学年「茶摘みの手遊び」
「いっしょに楽しんでね！」

関わりのひとりだち 「伝統文化」

本校は、総合的な学習の時間を「杉の子タイム」と名付け、愛するふるさと神淵と共に高まる活動を行っています。六年生は、ふるさと神淵を大切にしたいという願いをもち、「自分たちにできること」というテーマで、神淵の現状（高齢化・後継者不足を知り、そのために自分たちができることを考え、実践することを通して、ふるさとへの愛情を深める活動を行っています。特に、地域で四百年以上続く神淵神社の祭礼で演奏される篠笛・和太鼓の伝統を守りたいという思いで、地域の方々に教えていただきながら、製作・演奏に取り組んでいます。十二月十二日（土）には、可児市文化創造センターAで行われる第二九回ジュニア文化祭にも出演する予定です。ぜひご来場下さい。

『神淵神社 大祭（4月）』
～400年以上続く伝統～



6年生『篠笛の練習』
「やった、音が出たよ！」



関わりのひとりだち 『豊かな自然』

学校の周辺には、長年にわたり整備されてきた大切な森林と、多くの生物が生息する清らかな神淵川など、豊かな自然がいっぱいいます。この自然のすばらしさを感じる存分体感し、将来に渡りこの環境を大切に守りたいという思いを強くするために、地域や関係諸機関の方々への支援をいただき、体験的な活動に取り組んでいます。五年生は、「神淵の山とともに」というテーマで、納古山登山（高学年）、森林（財産区）の観察、間伐材の利用などに取り組んでいます。四年生は、「神淵川とともに」というテーマで、カワゲラウォッチング・水源地見学・水質調査・水生生物の調査、稚鮎の放流、虫の幼虫の飼育などに取り組んでいます。また、三年生は、「大好き神淵」というテーマで、神淵探検、カイコ飼育、繭人形作りなどに取り組んでいます。どの子も、実体験を通して生き生きと学んでいます。

高学年『納古山登山』
「御嶽山、乗鞍も見えるよ！」



4年生『水生生物の調査』
「あつ、いたいた。ここだよ。」



3年生『カイコの飼育』
「もりもり、よく食べるね！」





吹奏楽部

- ①コンクール金賞をめざし、部員全員で美しいハーモニーを作る。
- ②私たちは、「あいさつ・返事・時間」を大切に練習しています。大人数の部活ですが、仲良く真剣に取り組んでいます。



パソコン部

- ①全員が検定の2級以上合格できるようにする。
- ②部員は、将来の仕事などに役立てようと日々努力しています。部の目標が達成できるように、僕が部員を引っ張っていきます!!



体力作り部

- ①所属しているクラブチームで結果を残す事です。
- ②クラブチームで力を発揮できるよう、体力向上を目標に頑張っています。走ったり筋力トレーニングをしたりして活動しています。

美術部



- ①美術作品の制作を通して、美術に取り組む楽しさを知ろう。
- ②普段はデッサン、水彩画、油絵などを制作していますが、美術館見学、あかりアート出品、展覧会開催などにも取り組んでいます。

- ①いつでも礼儀正しく、いつでも元気に、いつでも声を出すバレー部
- ②真剣に練習に励み、苦しい時でも乗り越えて、その上で試合に勝った喜びをチームみんなであ味わいたいです。

バレー部 女子



卓球部



- ①自分のプレーを大切に1本1本集中しながら全員1勝を目指す。
- ②練習では、基本練習や弱点克服を大切にしています。部活動だけでなく日常生活でも「当たり前のことができる自分」を目指します。

剣道部



- ①「不撓不屈」の精神のもと、東海大会ベスト8以上を目指します。
- ②今は部員が少なく、厳しい状況ですが、東海大会ベスト8を目指し、一人一人が大きな声を出して頑張っています。

柔道部



- ①全国大会、東海大会出場をめざして頑張っています。
- ②厳しい練習の中で励まし合い、一緒に心も体も成長させたいと頑張っています。今年は女子個人戦で一名、全国大会に出場しました。

水泳部



- ①自分に負けず、より高い目標に向かって、努力し続けます。
- ②誰からも応援してもらえる部活を目指しています。個人競技ですが、水泳部の一員としての自覚をもち、頑張れる集団を目指します。

陸上部



- ①部員全員が中体連で県大会に出場する事です。
- ②日々の練習を積み重ねる事や、目標とする選手を見つけて目指す事で結果を残し、自己新記録をどんどん更新していきたいです。

ソフトテニス部 男子



- ①団体戦、県大会出場。
- ②部員19人は県大会出場を目標にがんばっています。1つ1つの練習を大切に、良い雰囲気練習を積み重ねていきたいです。

ソフトテニス部 女子



- ①全員が中体連地区大会出場を目指し、先輩方の思いをつなぎます。
- ②一人一人が声を出し、あきらめずにボールを決めます。応援も全員の声をそろえて一つのチームとして試合に臨み、勝利を目指します。

バスケットボール部 男子



- ①中体連での県大会出場です。旭中として恥のない試合をしたいです。
- ②毎日のようにある厳しい練習でも、一人一人みんなが頑張っています。バスケ部はたくさんの歴史があるので頑張っていきたいです。

バスケットボール部 女子



- ①仲間と力を合わせ助け合い、県大会出場を目指します。
- ②私たちは苦しい練習でも笑顔で声をかけ合って頑張っています。あきらめないプレーができるように、全員で練習に取り組んでいきたいです。

サッカー部



- ①中体連で県大会1回戦突破を目指しチーム一丸となり頑張ります。
- ②僕たちは、2年生を中心として声を出し、一人一人自立できるように頑張っています。チーム内での関わりを大事にし、練習を頑張ります。

野球部



- ①3年生の先輩方が達成できなかった県大会優勝です。
- ②僕たちは、全力プレーを常に心がけて練習し、試合で支えてくださった方へ感謝を伝えることを大切にしています。目標達成を必ずします。

夢中！熱中！
我らが部活

関市立旭ヶ丘中学校

①目標 ②部長からのコメント

私たちのPTA

山県市立いわ桜小学校PTA

平成27年度いわ桜小PTAスローガン

自らの責務を自覚し、子どもを守り育てよう！

はじめに（学校紹介）

本校は、山県市の北端に位置しており、山や川など、豊かな自然に囲まれた美しい学校です。校区が広く、児童のほとんどがバスを利用して登下校しています。全校児童は三十一名、PTA会員数は二十四名の小規模校です。

子どもたちは、学年を問わず、仲が良く、学校生活を楽しんでいます。また、特色のある自然や文化・芸能を学ぶ「ふるさと学習」にも熱心に取り組んでいます。

活動の重点

(1) 自ら学ぶPTAを目指そう

今日的な課題・喫緊の課題に対し、研修会を計画し、自ら解決する力をつけようと取り組んでいます。授業参観日など、学校行事と同一日に研修会を実施することで保護者の負担軽減も図っています。

・給食試食会：本校では、毎年五月に、新入学児童の保護者を対象にして給食試食会を実施しています。入学間もない子どもたちの給食の様子を参観するとともに自らも

仲良く遊ぶ子どもたち 学年の枠を飛び越え仲良く遊ぶ子どもたち

試食を行い、給食について理解を深めます。試食後は、栄養教諭の講話を聞きます。本年度は、調理員さんの仕事ぶりについて写真を見ながら説明を受け、調理員さんが、いかに安全に留意し調理してみえるかがよく分かりました。

・救命救急法講習会：毎年、夏休みに入る前に実施しています。これまでは、



いわ桜小学校舎



イワザクラ



仲良く遊ぶ子どもたち 学年の枠を飛び越え仲良く遊ぶ子どもたち

保護者のみの研修会でしたが、今年から親子での研修会としました。

弁当講習会

1年生とその保護者を対象にしたお弁当のおかず作りに挑戦しました。



生活習慣チェック表

7つのチェック項目で学期始めの生活の様子を振り返りました。



(2) 家庭教育を充実させよう
「子どもの教育の第一義的責任は親にある」の考えに基づき、家庭教育の充実を図ろうと年六回の家庭教育学習会を開催しています。

・弁当講習会：十月末に行われる「ふるさと祭り」には、親子でお弁当を作り学校に持参します。いわゆる在宅型の家庭教育学習会の一つです。この講習会は、低学年の子であっても作ることのできるお弁当を講師の方から親子でいっしょに学びます。生活科の学習として位置付け授業時間内に行います。

・生活習慣チェック：年に二回、九月と一月に行います。起床や就寝時刻、朝ごはんや歯磨きなど、七項目についてチェックを行います。学期始めの生活を規則正しくする上で大切な取組です。

(3) 地域の子育ての核になろう
地域の中で子どもたちを見守り、育てていくことを大切に考え、地域の中に積極的に出て行くことを大切に活動しています。

・地域清掃：「ふるさと祭り」は地域に帰る日でもあります。午前には、日頃お世話になっている地域の公民館や通学路の清掃を行います。

おわりに（成果と課題）

地域の一員であるという自覚を高める取組でもあります。

・川下り：校区のある美山地区には、「川下り」という地域行事が七月末にあり、六年生が参加しています。ふるさとを流れる武儀川をいかにのって下る活動を通して、ふるさとを愛する心が芽生え育つよう願っています。PTAは、いかに作りからいかにの運搬などの協力をしています。

はじめにも書きましたが、本校は会員数二十四名という小さな組織です。しかし、その誰もが協力的で、家族的な雰囲気の中でPTA活動が行われています。PTA行事の参加率はほぼ100%です。また、わが子の卒業までには、ほとんどの方が役職を経験するというのも、PTA活動の運営がスムーズである一因といえます。今後、前例を踏襲するだけにとどまらず、「子どもたちの幸せのために」を合い言葉にアイデアを出し合い、切磋琢磨するPTAでありたいと考えています。



川下り

自分たちのふるさとを川の中から見つめます。美しさやスリルで興奮します。



地域清掃

それぞれの地区に分かれ、公民館や通学路をきれいにしました。



食育講演会

栄養教諭から、食育について講話をしていただきました。



給食試食会

ランチルームでの全校給食の様子を参観しました。

がんばる子らの 汗と笑顔と眼差しと

飛騨市立神岡小学校

地域の人々の生き方を学ぶ神岡小学校の
「ふるさと学習」



1年「レールマウンテンバイク体験」

旧神岡鉄道の線路の上を自転車で走りました。
風が気持ちよくて、また、家族と一緒に乗りたいと思いました。



2年「水屋見学」

街並みガイドの案内で水屋を探検しました。地域の水屋の水は
おいしいです。町の人が大切に守っているおかげです。



3年「吉田太子踊り講習」

地域に伝わる民謡を保存会の方々に教えて
いただきました。9月の運動会では上手に踊ることができました。



4年「春慶塗体験」

春慶塗りの体験をさせていただきました。地域で活躍する
技術者の言葉や姿から、伝統工芸の素晴らしさを感じました。



5年「天蓋山登山」

インタープリターの方に案内していただき、神岡の豊かな自然を
満喫しました。いつまでも残したい風景です。



6年「江馬氏城館跡見学」

飛騨ではめずらしい中世の史跡を見学しました。都とのつながりが
感じられ、地域の誇りとして大切にしたい史跡です。

わが子のあゆみ

2015.11 No.440 初冬号
第67巻3号

発行：岐阜県PTA連合会
〒500-8824 岐阜市北ハツ寺町7 岐阜県校長会館内
編集：岐阜県PTA連合会広報委員会「わが子のあゆみ」編集部
頒価：200円 年間1,000円
この刊行物は一部岐阜県からの助成金を受けています。

バックナンバーのお求めは
058(262)3257
県PTA連合会事務局へ